

令和 6 年度

社会福祉法人 やおき福祉会

事業報告書

<目 次>

1. 法人事業報告	3～7
2. 法人組織	8
3. 各事業所の事業報告	
(田辺市)	
① 紀南障害者地域生活支援センター	9～13
② やおき工房	14～22
③ ゆうあいホーム（白浜町・上富田町含む）	23～28
④ くりつぶ	29～30
⑤ 陽だまり	31～35
⑥ ハモニティー・stretch+	36～41
⑦ アンカー	42～48
⑧ SHIP	49～51
⑨ サンヒルズ（みなべ町含む）	52～54
(田辺市：中辺路・本宮)	
⑩ 古道ヶ丘・本宮くまのこ作業所	55～62
⑪ こどうの家・第2こどうの家	63～65
(田辺市：龍神)	
⑫ 龍の里作業所・柳瀬出張所	66～70
(上富田町)	
⑬ かしのき	71～73
(白浜町)	
⑭ かへむ	74～78
(みなべ町)	
⑮ すまいる	79～84
(すさみ町)	
⑯ いなづみ作業所	85～89

令和6年度 法人事業報告（案）

令和6年度の事業計画・法人基本方針に沿って以下の点について取り組んだ。

1. 利用者視点に立った円滑な福祉サービス事業の展開

社会福祉法人として、利用者のエンパワメントを大事にしながら、虐待防止や差別解消法等を遵守するとともに、各事業の特性を生かした支援を総合的に行った。

- ① 地域から様々な相談を受け、市町と連携した委託相談、サービス等利用計画作成における相談支援等を通して、円滑な地域生活を送るために必要な支援を行うとともに、地域相談支援体制の向上に向け、行政と連携して取り組んだ。
- ② グループホームについては、ゆうあいホームでは円滑な運営を確保しつつ空き部屋の解消に努め合理的で安全な生活を確保し運営を行ってきた。サンヒルズにおいては就労型としての運営を基本としつつ、離職後の利用者の継続利用も認め再就職支援や日中活動の紹介など幅広い取り組みを進めてきた。また、「なないろ」「南紀の台ホーム」は各7名定員運営を継続し施設通所者、一般就労者が共同生活を行っている。さらに、こどうの家においては触法障害者の支援を継続しつつ、保護観察所等の司法機関と連携した支援に取り組んだ。
- ③ 一般就労については、就労希望者の積極的な受け入れと実習先等の斡旋・就労支援をアンカー等と連携し取り組みを行った。やおき工場の就労移行支援事業においては実利用者の減員により一昨年より大幅な減収となった。B型事業所では、休日開所の設置と、目標とした授産努力を連携で行いしつつ、個々の利用者のニーズに応じて、一般就労や他事業所等へのステップアップを図るとともに生活面の支援も各事業所において一体的に実施した。
- ④ 余暇及び生きがいに対する取り組みについては、事業所ごとに、集団活動・交流を目的としたレクリエーションや旅行、地域のイベントなどの参加等、楽しめる機会を積極的に取り組んだ。
- ⑤ 地域格差を生まない取り組みとして、事業所間での情報共有を図り、密な連携を行うことで、事業所が相互に高まっていけるよう取り組んだ。

- ⑥ 利用者自身が選択・決定できるよう、サービス等利用計画、各事業所における個別支援計画に基づくモニタリングを丁寧に行うことで、利用者の希望を聞く機会を確保して支援を行った。
- ⑦ 法令に基づく虐待防止、人権擁護、差別解消等の取り組みについては虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会の設置を行うとともに、2 か月に 1 回の頻度で苦情相談委員会を開催する等、個別の案件をくみ取りながら人権意識の向上に取り組んだ。なお、年 1 回、県が実施する「虐待防止研修」及び「伝達研修」に参加し伝達研修会を行った。

また、安定した事業所運営のための BCP の義務化に伴い、感染症及び災害時の対応マニュアル等の作成を行い、感染症及び食中毒予防及びまん延防止についても指針を作成するとともに各事業所での研修・訓練を行ってきた。
- ⑧ 高齢化する障害者の支援体制については、個別に事例検討を実施し、利用者に必要な支援を考えるとともに、必要に応じ、高齢資源との連携を図ってきた。高齢者を含めた「住まい確保」の問題について、法人内をはじめ行政や地域資源と課題共有等を行った。

2. 財務運営

令和 6 年度は、健全な財務運営を継続しつつ、近い将来に直面する過疎地域の利用者減少や高齢化・他事業所との競合に備えるための取り組みを昨年度に引き続き実施した。

古道ヶ丘移転に関する事案では、行政担当者との複数回の協議により、最終的に旧中辺路町内での用地取得を行い、次年度の新棟建設に向けた取り組みを継続して行った。

また、「新社会福祉法人会計制度」のもとでの財務運営も定着し、「地域貢献」に提供される「余裕財産＝再投下計画」については、本年度も対象とはならない運営を行うことができた。

- ① 毎月、法人全体の充実財産試算表を作成し、計画性を持った運営を行った。
- ② 資産の有効活用については、利用者処遇や給与規程の改定などを通して質の向上に期するとともに、将来を見据えたバランスに配慮した活用をすすめた。
- ③ 建物及び設備への計画的な投資については、現在の利用者支援ニーズを踏まえ、田辺市と「古道ヶ丘の移転」に関する懇談会を定期的に持つなど今後の計画的施設整備に向けた検討を行った。
- ④ 職員の安定雇用を目的として本年度も定期昇給を実施した。また、10 月には基本給の臨時改定を行い、一部の手当を基本給に組み込む措置を行い全体的な基本給の強化を行った。

- ⑤ 福祉・介護職員の処遇改善及び物価上昇対策を目的とした各種助成金等の活用を行い、処遇改善手当の充実や光熱水費等の上昇に対する助成金の取得に取り組んだ。

3. 人材の採用・育成と長く働き続けられる仕組みづくり

全国的な人材不足の傾向は本地域ではより深刻な問題となっており、本年度も離職に伴う適時の採用に困難な側面があった。特に旧市外の事業所、夜間帯の支援員確保において応募者の減少が顕著だった。

働き続けやすい環境整備については有給休暇、子の看護休暇、介護休暇、といった各種の休暇の積極的な取得を推奨しながら、国の基準に沿った規則変更を行った。

その他、在職中の人材育成の取り組みとしては法人研修部を中心に各種の研修を実施した。

- ① 人事ヒアリングについては各事業所個別に実施した。
- ② 法令に定められている虐待防止研修、人権擁護研修、安全・災害対策研修については、全体研修を開催し、伝達研修等それに類する取り組みは事業所毎に実施した。
- ③ 主任研修は、事務局会議にて内容を検討し6回開催。
- ④ その他については、新人職員研修を実施。研修部主催研修はBCP（防災）研修、成年後見研修を実施、また、ボランティア事業での地域啓発研修を2回開催。事業所毎での必要な研修についてもそれぞれの事業所で実施した。

4. 地域における関係機関との連携

田辺市とその近隣市町村を圏域とする総合相談窓口（にじのわ）への職員派遣など法人の壁を越えた連携に取り組み、地域の相談体制の充実に取り組んだ。

また、田辺市の新庁舎移転による売店およびカフェの設置に関して、既存の売店ピュアの実績を活かし自立支援協議会と協働しながら5月に新庁舎への移転を行い運営を継続している。

5. 社会福祉法人としての役割の推進

法令・制度を遵守しながら「地域貢献」を意識した運営を行った。他の株式会社や特定非営利活動法人にはない連携や地域交流を図り「給付」の対象とならない活動も積極的に行った。

6. その他

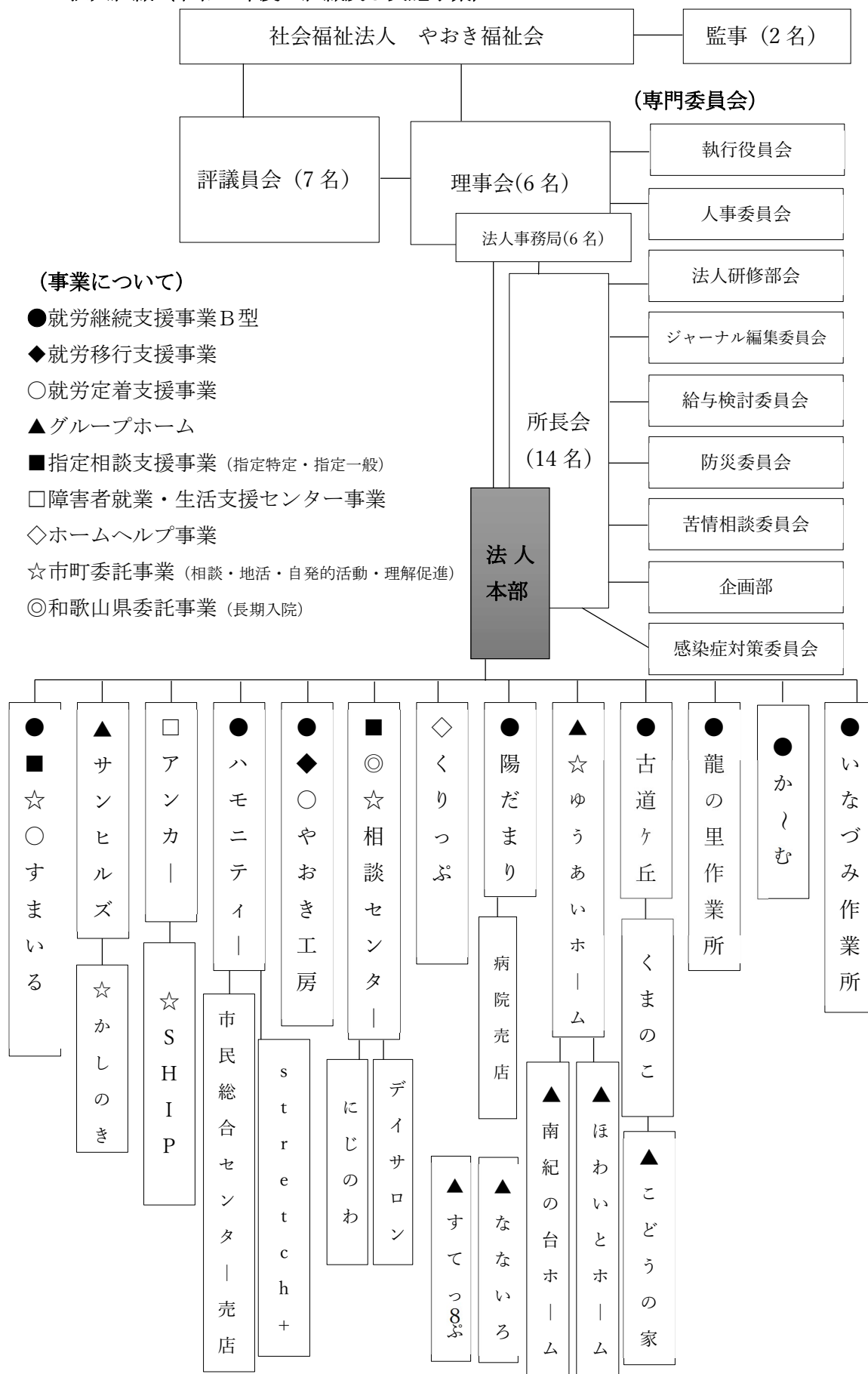
法人行事として利用者運動会の開催、新年会などを実施。新型コロナウイルス感染症は減少したが、一部での感染があり、またインフルエンザ罹患者の数は増加し生活施設では対応に追われることもあった。感染症及び食中毒予防及びまん延防止委員会による研修・訓練により適宜の対応ができ、重篤化する利用者はいなかった。

7. 法人行事報告

年月	役員会・行事等	広報・研修活動等
4 月	1 日 辞令交付式・勤続表彰式 3 日 法人事務局会議 15 日 所長会議 24 日 執行役員会	16 日 苦情担当者会議 18 日 主任研修
5 月	7 日 法人事務局会議 20 日 所長会議 22 日 監事監査 25 日 理事会 29 日 執行役員会	24 日 新人職員研修① 31 日 新人職員研修②
6 月	4 日 法人事務局会議 17 日 所長会議 26 日 執行役員会 29 日 評議員会	7 日 新人職員研修③ 11 日 ジャーナル 102 号発行 14 日 新人職員研修④ 18 日 苦情担当者会議 21 日 主任研修 26 日 後援会総会
7 月	2 日 法人事務局会議 22 日 所長会議 31 日 執行役員会	5 日 職員交流会 19 日 職員交流会
8 月	6 日 法人事務局会議 19 日 所長会議 28 日 執行役員会	20 日 苦情担当者会議 23 日 主任研修
9 月	3 日 法人事務局会議 人事委員会 17 日 所長会議 25 日 執行役員会	6 日 ジャーナル 103 号発行 13 日 全体研修（人権研修） 25 日 給与改定委員会
10 月	8 日 法人事務局会議 21 日 所長会議 29 日 執行役員会	4 日 全体研修（防災研修 BCP） 11 日 やおき運動会 18 日 主任研修 19 日 ボラ事業（グラウンドゴルフ） 22 日 苦情担当者会議 25 日 所長研修
11 月	5 日 法人事務局会議 人事委員会 18 日 所長会議	2 日 ボラ事業（アウトドア交流） 9 日 ボラ事業（アウトドア交流） 17 日 主任研修

	22 日 理事会（1 次補正） 25 日～所長ヒアリング 27 日 執行役員会	30 日 ボラ事業（発達障害者研修）
1 2 月	3 日 法人事務局会議 人事委員会 16 日 所長会議 22 日 職員登用試験 26 日 人事委員会 26 日 執行役員会	16 日 ボラ事業（キンボール） 17 日 苦情担当者会議 20 日 主任研修 22 日 ジャーナル 104 号発行
1 月	7 日 法人事務局会議 人事委員会 20 日 所長会議 29 日 執行役員会	
2 月	4 日 法人事務局会議 人事委員会 17 日 所長会議 21 日 理事会（2 次補正） 26 日 執行役員会	12 日 ボラ事業（精神疾患） 18 日 苦情担当者会議 28 日 主任研修
3 月	4 日 法人事務局会議 人事委員会 17 日 所長会議 22 日 理事会（計画・予算） 26 日 執行役員会	21 日 法人虐待防止研修 23 日 ジャーナル 105 号発行

8. 法人組織（令和6年度の組織及び実施事業）



【指定相談支援事業】

令和 6 年度「紀南障害者地域生活支援センター」事業報告（案）

1. 運営概況

令和 6 年度は、「指定特定相談」、1 市 4 町からの受託による「委託相談」、白浜町の「自発的活動支援事業」、「和歌山県長期入院精神障害者地域移行促進事業」 精神科病院からの退院を支援する指定一般相談（地域移行支援）に加え、新たに 1 市 4 町による「基幹相談」を受託し、委託相談とともに 1 市 4 町と 4 法人の連携により、全般的な相談と地域の相談支援体制の整備をすすめる活動を行った。そのほか、相談支援の運営状況の改善を目的として、4 法人の連携で市町への要望を行い、改善に努めた。

2. 事業報告

① 指定特定相談支援（計画相談 ※サービス等利用計画の作成とモニタリング）

本年度も「ユアセルフ」との間で協働型相談支援を実施することで、機能強化型サービス支援費Ⅰ（毎月の連携会議の開催、連携による事例検討・研修の実施、現場でのケース連携等が要件）で運営を行った。

② 指定一般相談支援（地域相談）

令和 5 年度に引き続き、県立こころの医療センターに入院している人を対象に「地域移行支援サービス（退院支援）」を提供し、退院に繋げることができた。「地域定着支援サービス」については利用がなかった。

③ 市町相談支援事業（委託相談）

西牟婁圏域の市町村（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）から一般的な相談支援の受託を継続し、地域生活等に関する必要な相談を以下のとおり実施した。

名 称 西牟婁圏域障害児・者相談センター「にじのわ」

対象地域 西牟婁圏域全体

所在地 田辺市民総合センター 1 階

運 営 やおき福祉会、ふたば福祉会、和歌山県福祉事業団、田辺市社会福祉協議会

派 遣 やおき福祉会より専任の相談支援専門員 1 名

④ 市町基幹相談支援センター事業（基幹相談）

西牟婁圏域の市町村（田辺市・みなべ町・白浜町・上富田町・すさみ町）から基幹相談支援を新たに受託し、地域の相談支援体制や人材育成のための活動を実施した。

名 称 基幹相談支援センター「にしむろ」

⑤ 自立生活援助事業（障害福祉サービス）

単身で地域生活を営むことに不安がある人に対し、個別支援計画を作成し、月 2 回以

上の訪問を行うとともに具体的な生活の調整及び医療との調整、同行などの支援を行った。

⑥ 長期入院精神障害者地域移行促進支援事業

和歌山県から受託を継続し、長期入院となっている精神障害者の退院意欲の喚起を目的として相談支援を実施した。1名の支援を継続したが、県における事業全体の見直しのため、本年度を以て終了した。

⑦ 白浜町自発的活動支援事業（デイサロン）

白浜町からの受託を継続し、月3回のデイサロンを開設、うち1回はプログラムとして、季節的な趣向をもとに全体行事を開催した。コロナの落ち着きとともに利用者も増加し、令和6年度は、年間利用者は延べ329名、月平均27.4名、月実人数13.5名であった。

地域ネットワーク活動

① 西牟婁圏域自立支援協議会活動

協議会の事務局、定例会、全体会に参加するとともに専門部会として「精神保健福祉部会」、「相談支援部会」に参加し、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築」や相談支援における地域の課題等について協議や研修を行った。

② 圏域委託相談法人会議の活動

4法人で運営する「にじのわ」及び「基幹相談支援センターにしむろ」について、毎月、会議を行うとともに、市町行政と連携して活動を行った。そのほか、5年度に実施した委託相談消費税問題への対応に引き続き、令和6年度も相談支援全般の課題検討を市町に要望し、継続的に行政と法人が協議を行った。

その他の活動

- ① 協働型相談支援事業所間で事例検討や研修を開催、他機関の研修等にも参加した。
- ② 行政及び諸団体の委員・役員等を担い支援協力等を行った。
- ③ 令和6年度は、精神保健福祉士資格援助実習生はいなかった。

5. 行事報告

年月	支援業務	行事等
4月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（ドライブ、買い物、稲村の火見学）
5月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（チョコレート工場見学）
6月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、	デイサロン（田辺市新庁

	地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	舎見学：カフェ)
7月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（カラオケ、ランチ、ドライブ）
8月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（かき氷）
9月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（梅干し工場見学）
10月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（バーベキュー：古道ヶ丘）
11月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（買い物、近露道の駅、すさみピザ店）
12月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（クリスマス&忘年会）
1月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（カラオケ、ランチ、ドライブ）
2月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（観梅）
3月	委託相談（にじのわ）、基幹相談（にしむろ）、サービス等利用計画の作成、地域移行支援の実施、自立生活援助の実施、長期入院者支援、デイサロン	デイサロン（エネルギーランド）

6. 数値実績（委託相談・基幹相談、指定特定相談・指定一般相談・自立生活援助）

項目	にじのわ・にしむろ/4法人（委託相談・基幹相談）	相談センター / 指定特定・指定一般・自立生活援助・県長期入院事業・地域貢献事業）
相談支援専門員等人数	11名（うち、やおき2名）	5人（うち、1名は非常勤）
相談支援件数 計	13,619件（4法人全体）	6,009件

相談センター障害別相談件数

精神障害	知的障害	身体障害	重複障害	発達障害	高次脳	難病	不明（※高齢含）
3,312	627	61	1,543	294	112	9	51
実人数	242人						

相談センター年代別相談件数

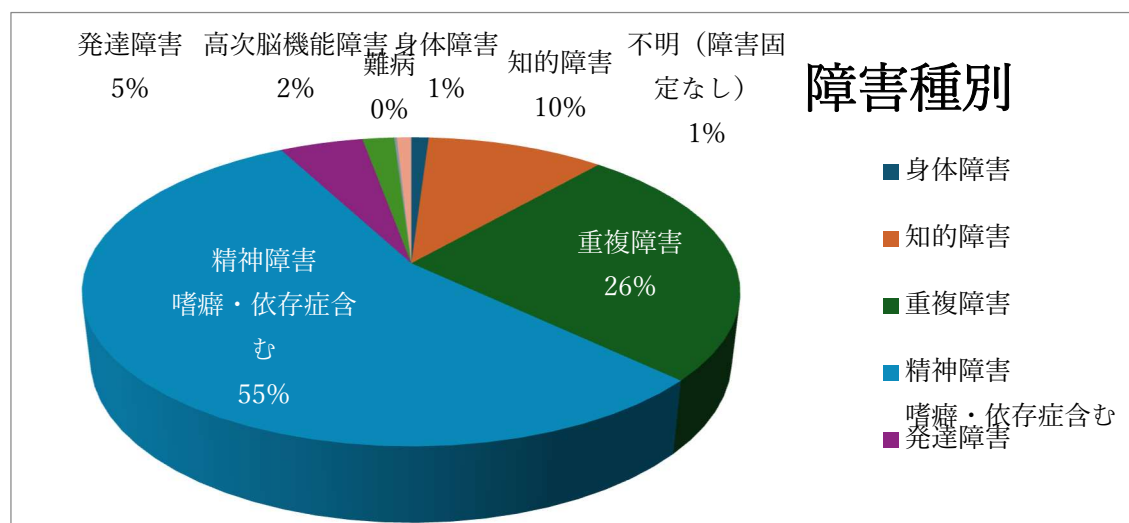
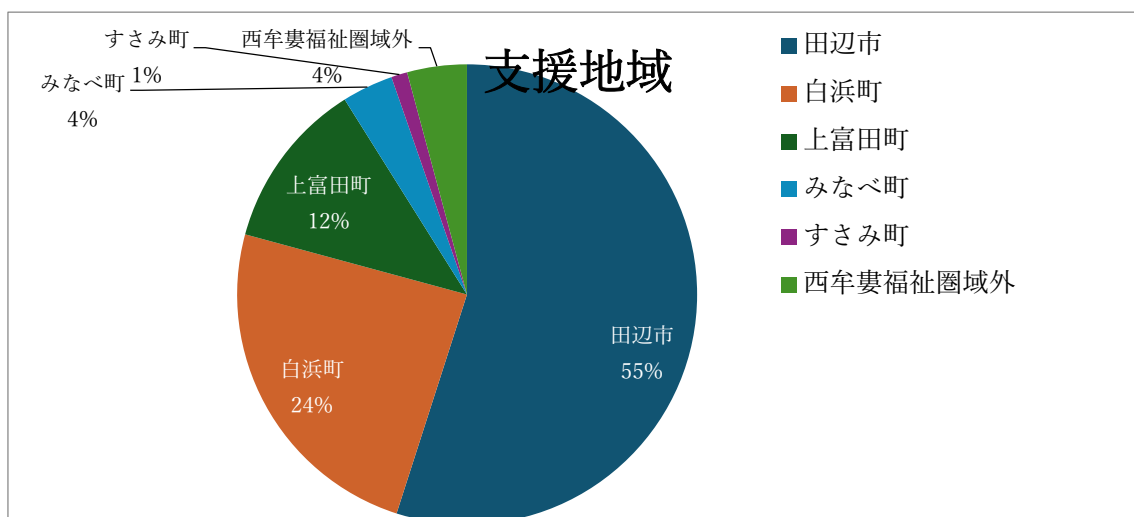
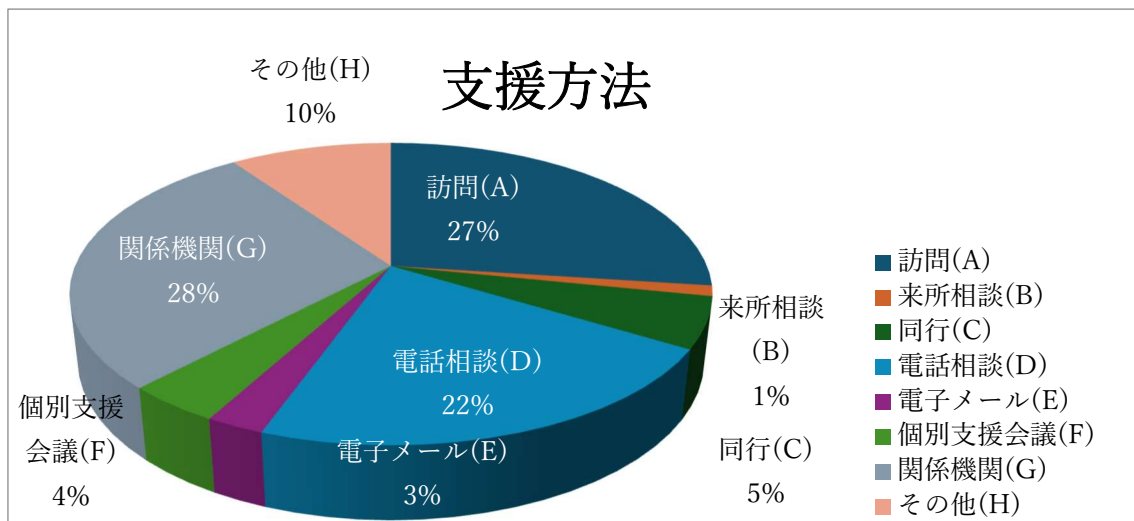
年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	障害児
件数	92	627	804	1,455	1,521	1,389	70	43	0	8

市町別内訳

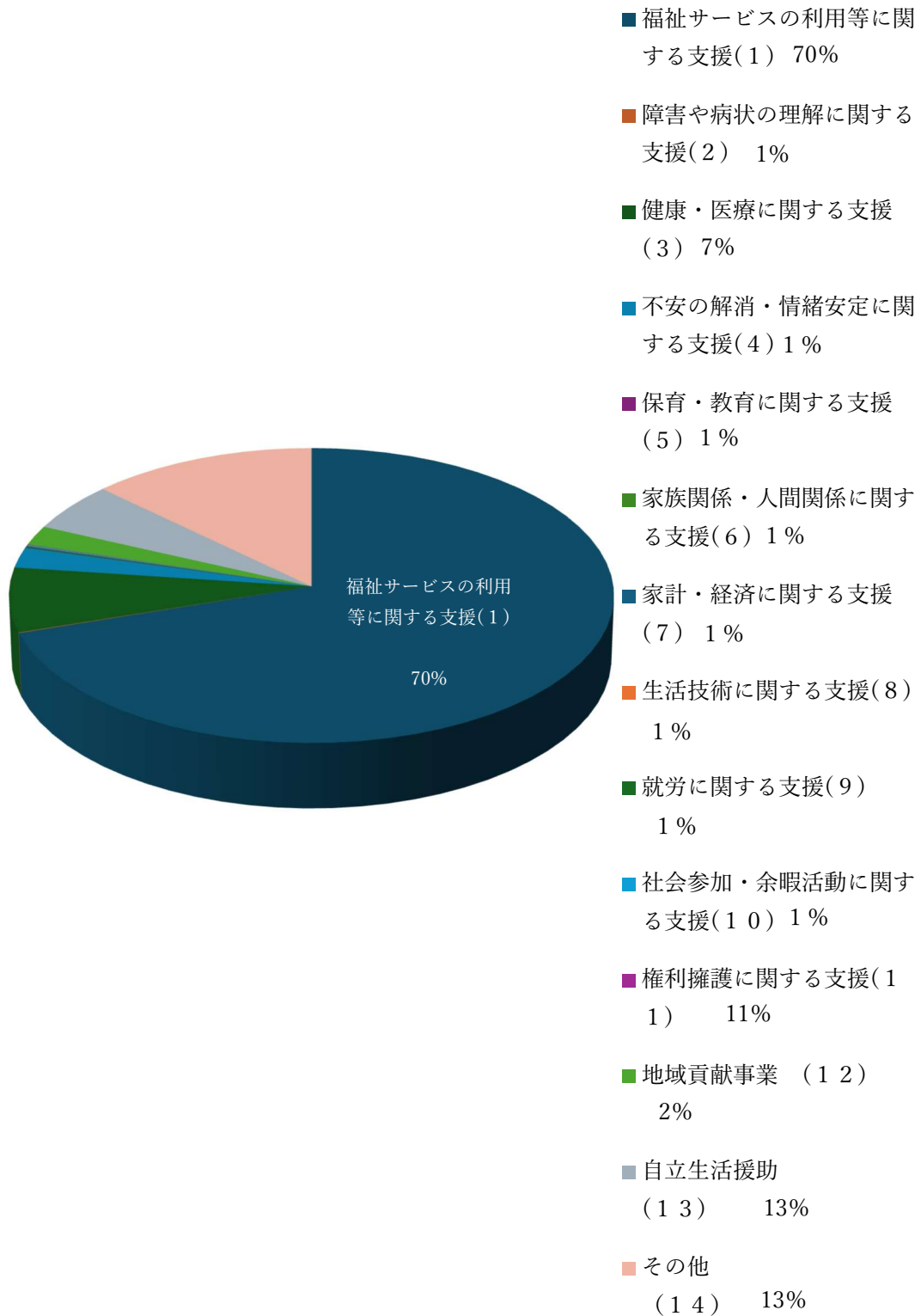
田辺市	みなべ町	白浜町	上富田町	すさみ町	圏域外
-----	------	-----	------	------	-----

3,302	216	1,457	714	68	252
-------	-----	-------	-----	----	-----

相談実績（グラフ：抜粋）



支援内容



【就労移行支援・就労継続支援 B 型・就労定着支援】

令和 6 年度 やおき工房事業報告（案）

1. 運営状況

今年度は就労移行支援（定員 6 名）及び就労継続支援 B 型（定員 20 名）、就労定着支援（定員なし）の 3 事業の運営を行った。

就労移行支援では、5 名が就職し現在も就労継続中である。また 4 名が年度途中で B 型に転籍した。利用者の退所が相次いだ。南紀はまゆう支援学校やフォレスクールからの新規利用者もおらず、年度末時点で利用者は 3 名となっている。2 月に定員を 8 名から 6 名に減員した。就労移行については運営が厳しい状況となっており、新規利用者の確保が喫緊の課題である。

就労継続支援 B 型では、授産事業が堅調に伸びている。自主製品のお菓子やめも帳・らくがき帳の販売が好調であった。田辺市ふるさと納税にお菓子の詰め合わせ 2 種を登録（楽天ふるさと納税、さとふる等）、ホテルのウエルカムスイーツの OEM 受注、めも帳・らくがき帳の共同受注・優先調達での注文等が増え、授産収益や平均工賃を増額することができた。また、田辺市役所新庁舎のカフェ『カミィーノ』では 5 月より毎週月曜日にホットドッグとホットサンドを製造販売した。

就労定着支援では、6 名に対して支援を行った。全員が就労継続中。3 名が支援終了となった。

2. 事業報告

① 就労支援活動

【就労移行支援】

（1）新規利用者：0 名

（2）就職者：5 名（病院 クリーニング業務 1 名、高齢者施設 清掃業務 1 名、小売店 販売員 2 名、製造会社 製造加工 1 名）

B 型転籍：4 名

その他の退所者：1 名（対人関係の問題で自主退所）

（3）併用利用者：1 名（雇用形態が午後勤務のため、午前は訓練継続）

（4）就労アセスメント利用者：13 名

（5）授産活動

i 給食事業： 年間喫食数は 21,245 食（前年度比 2,890 増）であった。給食提供日は 215 日で年間 1 日当たりの平均喫食数は 98.8 食（前年度比 16.1 増）であった。事業所別の年間喫食総数（一日平均喫食数）は、やおき工房 6,128 食（28.5 食）、ハモニティー2,180 食（10.1 食）、stretch+1,577

食(7.3食)、陽だまり 4,022食(18.7食)、かへむ 3,351食(15.6食)、古道ヶ丘 3,908(18.2食)であった。一食当たりの食材費が333.9円であり、3月だけを見れば392.6円となっている。米・野菜等の食材費高騰が続いており、300円の食材費では厳しい状況に陥っている。

今年度は異物混入も相次ぎ、配食事業所の利用者・職員に大変ご迷惑をお掛けした。異物混入対策マニュアル等を見直し改善を図った。食数が増えたことによる調理員(2名体制)の疲弊や配食に携わる利用者も減少する中、給食なし日を月1回から2回に増やした。

【就労継続支援B型】

- (1) 新規利用者：6名(就労移行から転籍4名、かしのきからの転籍1名、陽だまりとの併用利用1名)
- (2) 退所者：5名(移行へ転籍1名、職場復帰1名、サービス付き高齢者住宅入居1名、長期自宅療養1名、通所意欲の減退1名)
- (3) 授産活動

- i 受託作業：施設外作業は順調。草刈り作業や印刷・製本の注文もあり堅調であった。

- ii 内職作業：福菱・亀井商店を中心に行う。売り上げは横ばい。単価の面で大きな収入源にはなりにくい。

- iii 販売事業：製菓では米クッキーのOEMでくろしお想(白浜町)のウェルカムスイーツとしての製造が増えた。また、田辺市ふるさと納税にお菓子詰め合わせ2種が登録され、楽天ふるさと納税から5回、さとふるから1回の注文があった。また、田辺市役所新庁舎カフェ・カミィーノにて毎週月曜日にホットドッグとホットサンドを販売した。

めも帳、らくがき帳は、優先調達・共同受注の販売が好調で60万円を超える売り上げとなった。県社協ふくしフォトコンテストの参加賞や田辺市男女共同参画啓発用(1,000冊)、上富田町消費者啓発用(750冊)、法務省大阪矯正管区啓発用(800冊)等の注文があった。

【就労定着支援】

- (1) 利用者：6名に対して支援を行った。全員が就労を継続している。3名が支援終了となっている。

② 生活支援活動

- (1) 土曜開所：23回開催する。作業日の開催が多かった。若年者の参加がやはり少ない。
- (2) 健康管理：健康診断(3/24、25、27白浜はまゆう病院)を実施した。減量等が必要な利用者にはウォーキングの参加を促し、水曜日の午前中に開催し、延べ23回実施し、延べ106名が参加した。

- (3) 学習支援：3/18に田辺警察署の特殊詐欺被害防止アドバイザー2名に来て頂き、田辺市まちづくり学びあい講座『振り込め詐欺等に関する防犯教室』を開催し22名が参加した。4月に同様の被害に2回も遭った利用者もあり、非常にタイムリーで有意義な学習会となった。
- (4) 余暇支援：下欄の行事報告の通りにレクリエーション等を実施した。
- (5) サークル活動：陽だまり、かへむと合同でバレーボールの練習を15回開催した。やおき工房からは延べ56名が参加した。令和7年5月24日(土)開催予定の近畿ブロック大会(草津市立総合体育館)に参加予定となっている。
- (6) 防災訓練：11/28(18名参加)、3/13(16名参加)の2回行った。土砂災害の避難訓練や避難施設である三栖コミュニティーセンターの見学を行った。また、田辺市まちづくり学びあい講座『起こってからでは大変！火災の予防』を受講した。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援：精神科の入退院やサービス付き高齢者住宅の入居調整が必要な利用者がいた。認知症を発症した利用者の介護の必要度が増し、移動、乗降、トイレ、着替え、食事等様々な場面で介護が必要となった。介護技術の習得の必要性もさることながら、作業所での受け入れの限界も感じた。
4名の利用者に自力通所を促した。2名が自転車通所、2名が原付通所を開始した。
ふれあい文化祭の舞台発表でピアノ演奏をする利用者の支援を行った。
- (2) 医療支援：2名に服薬管理支援を行った。
- (3) 紀南こころの医療センターデイケアとのカンファレンスを実施し、利用者1名の情報共有・支援内容の検討を行った。
- (4) 家族懇談会：日程が取れず今年度も中止となった。年々家族とのかかわりが希薄になりつつある現状もあり、来年度は必ず実施したい。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) ゴミ拾い&ウォーキング：運動が必要な利用者と三栖・城山台沿道の清掃ボランティアを行う。計23回実施し延べ106名が参加した。年々地域に浸透してきており、声をかけてくれたりジュースを頂いたりすることも増えてきた。
- (2) 城山台子ども夏祭り：コイン落としや綿菓子、ポップコーン等で地域の子供達も喜び大盛況であった。売上50,200円は城山台町内会に寄付した。
(8/17 EH製菓駐車場)
- (2) バザー用品等の貸し出し：中三栖町内会に綿菓子機やポップコーンマシン、法人内事

業所にジュースストッカー等、少年サッカークラブに車両を貸し出した。

(3) バザー活動：イノブタまつり（5/3 すさみ海水浴場）、ヤーヤーまつり（8/8 北新町商店街）、地域福祉フォーラム（8/25 ビッグU）、ふれあい人権フェスタ（11/16 カッパーク）、ふれあい文化祭（2/15 ハナヨアリーナ）にてバザー出店を行った。

(4) 赤い羽根共同募金会街頭募金（10/2 グルメシティー万呂店）に4名が参加した。

4. その他の活動

- (1) はまゆう支援学校高等部3年生11名を就業体験（現場実習）で受け入れた。
- (2) 紀南看護専門学校3年生32名を精神科看護実習で受け入れた。
- (3) 西牟婁圏域自立支援協議会 就労支援部会、和歌山県セルフセンターに加入し活動した。

5. 行事報告

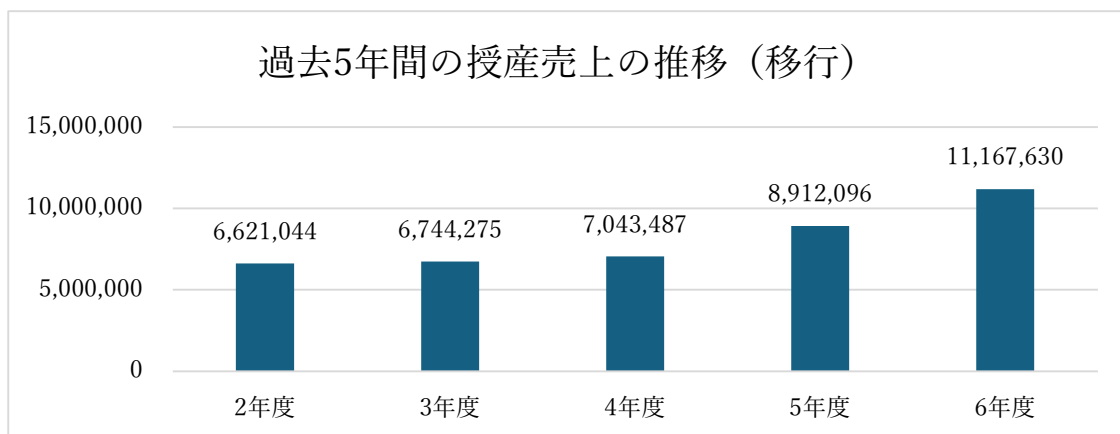
月	日	行事等	備考
4	4	花見（平草原）	
	17	自治会（役員改選、年間行事計画）	
	20	土曜開所（作業）	
5	3	休日開所（イノブタまつりバザー、レク）	
	18	土曜開所（作業）	
6	3	田辺市役所新庁舎、カフェ・カミィーノ見学	
	8	土曜開所（作業）	
	12	DVD鑑賞	
	22	土曜開所（作業）	
7	6	土曜開所（作業）	
	31	買物レク（泉南イオン）	
8	8	ヤーヤー祭りバザー出店	
	10	土曜開所（作業）	
	17	城山台子ども夏まつり出店	
	24	土曜開所（作業）	
9	25	地域福祉フォーラム物品販売（ビッグU）	
	14	土曜開所（作業）	
10	28	土曜開所（BBQ）	
	2	赤い羽根街頭募金（グルメシティー万呂店）	
	3	運動会合同練習（大屋体育館）	
	11	法人運動会（田辺スポーツパーク）	
	16	自治会（役員改選）	
11	19	土曜開所（作業）	
	2	土曜開所（作業、アウトドア体験交流会）	
	16	土曜開所（作業）、ふれあい人権フェスタバザー（カッパーク）	
12	28	防災訓練（土砂災害避難訓練、三栖コミュニティーセンター見学）	
	7	土曜開所（作業）	
	13	日帰り旅行（奈良）	
1	21	土曜開所（作業）	
	11	土曜開所（闘鶏神社初詣&桜香お食事会）	
1	24	法人新年会（ビッグU）	

	25	土曜開所（作業）	
2	5 15 22	観梅（南部梅林） 土曜開所（ふれあい文化祭レク、バザーin ハナヨアリーナ） 土曜開所（作業）	
3	8 13 15 18 24 26	土曜開所（作業） 防災訓練（田辺市まちづくり学びあい講座「起こってからでは大変！火災の予防」） 土曜開所（作業） 学習会（田辺市まちづくり学びあい講座「振り込め詐欺等に関する防犯教室」） 健康診断（白浜はまゆう病院）3/25、3/27 年度末お食事会（キーテラスホテルシーモア）	

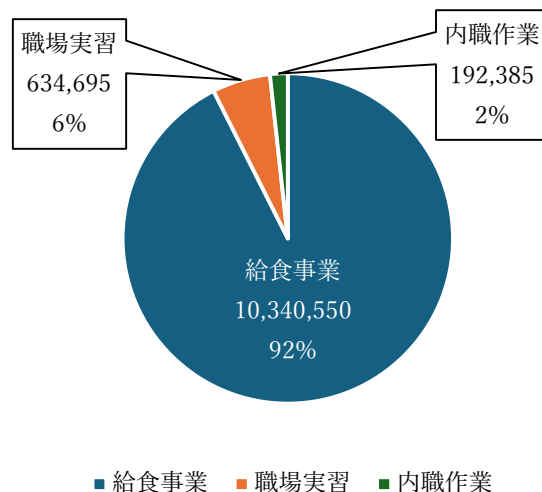
6. 数値実績

① 施設概要

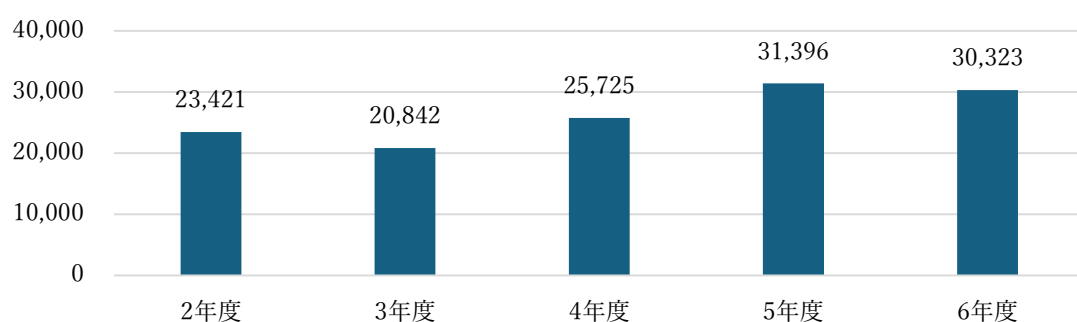
事業種別	【就労移行支援】	
定員	令和6年4月 8人	令和7年3月 6人
実利用者数	令和6年4月 13人	令和7年3月 4人
1日平均利用者数	令和6年4月 8.9人	令和7年3月 3.0人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 2.7人	令和7年3月 2.4人
年間稼働日数	総稼働日数 262日	休日開所日数 23日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	給食事業	10,340,550円
	職場実習	634,695円
	内職作業	192,385円
		計 11,167,630円
工賃実績 （一人当たり）	当初目標 月額 25,000円	実績 月額 30,323円



授産売上内訳（移行）

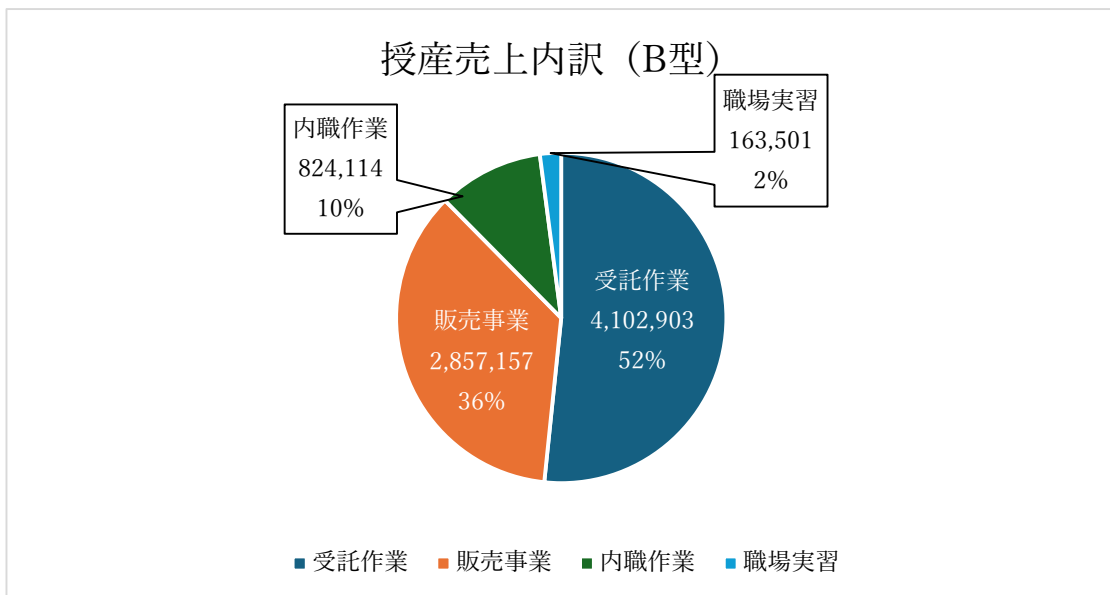
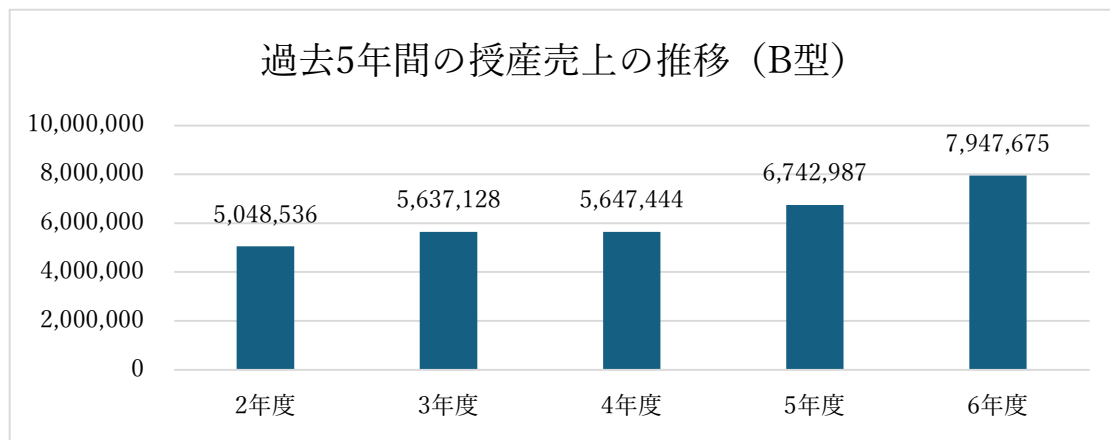


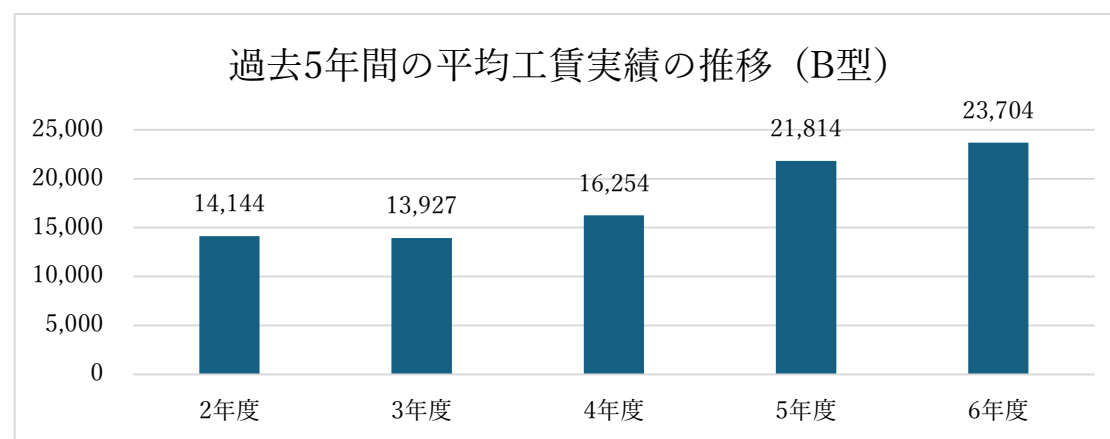
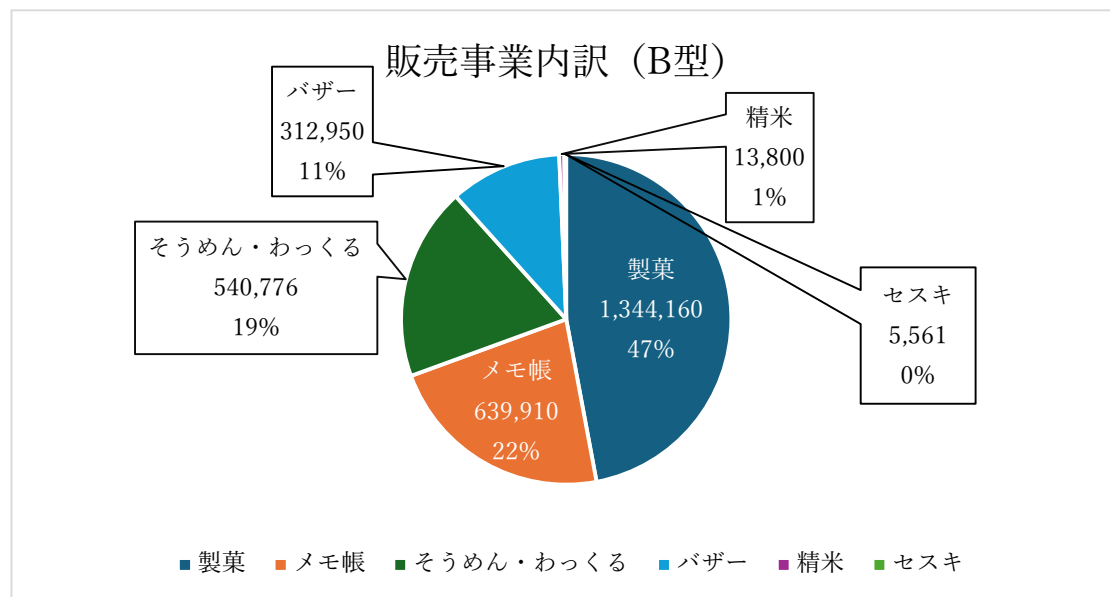
過去5年間の平均工賃実績の推移（移行）



事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 6 年 4 月 20 人	令和 7 年 3 月 20 人
実利用者数	令和 6 年 4 月 29 人	令和 7 年 3 月 31 人
1 日平均利用者数	令和 6 年 4 月 22.1 人	令和 7 年 3 月 23.0 人
職員常勤換算配置数	令和 6 年 4 月 7.7 人	令和 7 年 3 月 6.1 人
年間稼働日数	総稼働日数 262 日	休日開所日数 23 日

授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	受託作業	4,102,903 円
	販売事業	2,857,157 円
	内職作業	824,114 円
	職場実習	163,501 円
	計	7,947,675 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 22,500 円	実績 月額 23,704 円





②利用実績（月別）

【就労移行支援】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	8.9	6.45	6.3	6.7	6.9	7.4	6.4	4.8	3.4	2.4	3.2	3.0
開所日数	26	26	22	23	18	19	24	22	22	20	19	21

【就労継続支援B型】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	22.1	23.6	22.4	22.4	20.9	24.6	24.0	23.4	23.6	24.1	22.3	23.0
開所日数	22	23	22	23	21	21	23	22	22	21	20	22

③利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

【就労移行支援】

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男		3					3
女							
計		3					3

（平均年齢 23.0 歳）

【就労継続支援 B 型】

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男		5	3	4	7	1	20
女		4		3	3	1	11
計		9	3	7	10	2	31

（平均年齢 42.4 歳）

④障害種別（令和 7 年 3 月末時点）

【就労移行支援】 ※重複あり

障害名	利用者数
精神障害	0 名
知的障害	3 名
身体障害	0 名
発達障害	1 名
その他	0 名

【就労継続支援 B 型】 ※重複あり

障害名	利用者数
精神障害	23 名
知的障害	12 名
身体障害	1 名
発達障害	6 名
その他	0 名

【介護サービス包括型共同生活援助】

令和6年度 ゆうあいホーム事業報告（案）

1. 運営状況

ゆうあいホームを拠点とし、南紀の台ホーム、なないろ、ほわいとホーム、すてっぷはうすを一体的に運営した。

- ① 令和6年度は一室の空き居室がある状況で始まり、新規利用者1名の受入れを行い一時満床となった。しかしその後、退所者が4名あり空き居室ができてから新規の見学や体験利用の受け入れを行っていたが、具体的な新規利用に至らず、空き居室が4室ある状況で次年度を迎えることとなった。退所者4名の内訳としては、一人暮らしへの移行が1名、実家でご家族との生活を再開される方が1名、高齢利用者の介護施設への転居が2名という状況だった。
- ② 介護施設に転居となったケースにおいては、怪我や疾病に伴い医療機関への入院を経て、入院期間中の身体機能の低下などからも、ホーム生活への復帰が困難となり、退院先として介護施設に移ることとなった。医療機関やケアマネージャー、行政機関等との協議を重ねることで、退院先の施設につながる事ができた
- ③ B C Pの作成や情報の共有、必要な訓練の実施により、感染症や自然災害への備えとなる取り組みを行った。感染症対策については、指針の作成、研修や訓練を実施することで、事業所内での取り組みを職員間で共有する機会を持った。

2. 事業報告

① 生活支援活動

（1）平日の朝食、夕食の給食提供

調理員の採用により、自前で調理した給食を提供できる体制となった。食材費等の高騰もある中で、メリハリをつけたメニュー構成により、利用者の費用負担が過重にならないように努めた。

（2）休日の食事支援

給食提供を予定していない休日については、事前に買い物を行えるよう外出支援を継続して行った。また、歩行困難で買い物に行けない利用者については、移動販売車に定期的にホーム敷地内に立ち寄ってもらうことで、商品を自ら見て購入できる機会を提供した。

（3）早朝、夜間のバイタルチェック

特定の利用者に対して、継続的にバイタルチェックを行うことで、健康把握に努め、数値の変化に応じて医療機関の診察につなげるよう対応した。

（4）定期的な受診、処方通りの服薬支援

利用者が定期的な診察を忘れることなく受診できるように支援し、必要に応じて同行支援も行い、医師との意思疎通や治療内容の理解促進に努めた。また、安定した服薬ができるよう、薬の仕分けや服用のサポートも行った。服用時に落薬が目立つ方に対しては、予め袋から出して小さい器に入れておく等、その人に合った対応策を考えて実施した。

(5) 収入の範囲内で生活を継続するための金銭管理支援

一人一人の生活スタイルに合わせ、お金を使い過ぎて不穏になることを防げるよう、金銭管理のサポートを行った。金銭管理を行う上で、本人の意向を確認しながら、必要に応じて管理方法の見直しも柔軟に対応した。

(6) 居室の清掃、整理整頓の支援

居室内が清潔に保たれるよう、清掃や整理整頓における助言やサポートを定期的に取り入れ対応した。ゴミの処理や布団干し等、身体的な理由で自分ではできない事柄については、必要に応じて対応し、衛生的な環境で生活できるよう支援した。

(7) 居室内の災害対策

大掃除などの機会を通して、居室内における家具類の転倒リスクが生じていないかの点検を行い、必要な助言や対策のサポートを行った。

(8) 入浴や洗顔、歯磨き等について

衛生管理について、個々の状況を見守り、必要に応じて声掛け促しを行うことで利用者の衛生面の向上に努めた。

(9) 洗濯に関する支援

定期的に衣類の洗濯を行い、身だしなみを整えられるよう支援した。洗濯を行う適切な衣類の量などについて、必要に応じて助言を行い、適切な洗濯機の利用ができるよう働きかけた。

(10) 日常生活における相談支援

生活をしていく上で生じる様々な問題の解決や、不安の軽減につなげるための相談支援を丁寧に行った。支援にあたっては、共感的な反応を心掛けると共に、本人なりの行動や思考を是認することに重点を置き対応した。

② 個別処遇関係

(1) 個別支援計画を作成し、一人一人の生活課題への取り組みや、目標達成に向けて継続して支援した。

(2) 相談支援専門員やケアマネージャー、日中事業所等の関係機関との意見交換や情報共有に努め、客観的な意見をホームでの支援に活かせるよう対応した。

(3) 個別な相談対応を行う機会が多くあるため、支援者の面談スキルが向上するよう、外部研修への参加、その場で得られた情報を内部伝達する機会を設け、支援者全体で適切な支援が提供できるよう努めた。

③ 短期入所事業

- (1) 利用者は13名で、延べ利用日数は172日だった。対象利用者数、延べ利用日数ともに前年度実績（前年度6名、133日）を上回ることができた。
- (2) 新規利用者は3名で、主たる介護者が不在となる状況での受入れや、自宅での生活から一時的に環境を変えて休息期間を設けたい方々の受入れを行った。新規利用において、ホームで過ごす時間に困惑することがないように、丁寧に対応した。
- (3) 精神障害者の受入れにあたっては、急な予定のキャンセルも含まれており、利用実績には反映されない対応も多数あった。そのような場面においても、継続的な利用選択肢となり得るよう、柔軟に丁寧に対応した。

④ 日中一時支援事業

- (1) 具体的な利用相談がなく、実際の受け入れケースは無かった。
- (2) 田辺市との委託契約については、利用実績がないが継続されることとなった。

⑤ 田辺市自発的活動支援事業

- (1) 法人内各事業所から実行委員を募り実行委員会を開催し、企画の内容についての検討や準備、事業の実施運営を行った。
- (2) 当事者活動支援としてアウトドア体験交流会やグラウンドゴルフ大会を開催した。古道ヶ丘を会場に開催したアウトドア交流会は参加人数が多くなったことから年2回開催とし、延べ102名の参加があった。グラウンドゴルフ交流会は56名の参加があった。昨年までスポーツ交流会には高校生にも参加してもらっていたが、令和6年度事業には参加が得られず、学生との交流事業の実施については課題が残った。
- (3) 地域啓発事業として、発達障害、精神疾患についての講演研修会を開催した。発達障害理解促進講演会は対面で90名の参加、動画配信で306名の申込み（動画視聴は844回）を得ることができた。精神疾患の理解促進研修会では、紀南こころの医療センター坂本医師に協力していただき、地域の関係者等87名の参加を得ることができた。
- (4) ボランティア団体活動支援として、親子サークル「カンガとルー」の活動支援を継続し、障害を持たれた当事者の余暇活動としてダンス教室の開催を支援した。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) ふれあい文化祭実行委員会に担当者を派遣し、文化祭の開催に協力した。また、法人内各事業所からの参加に関する調整窓口としての役割を担った。
- (2) 町内会活動として実施された河川の清掃活動、地域の避難訓練に参加した（ほわいとホーム）。

4. その他の活動

- (1) 職員の研修機会を計画的に取り入れることで、外部研修に年間 13 回、延べ 21 回参加することができた。研修の内容により、事業所内での伝達研修として全体で共有する機会も持った。
- (2) 疎遠になっているご家族に対して、電話にて連絡を取り近況をお伝えする機会を持つように努めたが、家庭訪問の実施はできなかった。また、連絡がつかず応答の得られないケースもあり、関係機関等とも情報を共有していく必要性を認識した。
- (3) 希望者に対する感染症等の予防接種を実施することで、感染症の集団感染を防ぐための取り組みを行った。
- (4) 白浜町福祉サービス事業所連絡会に参加した。同会が開催したグループホームの視察研修会において、見学対応として参加者の受入れを行った。
- (5) 紀南こころの医療センターデイケアとの連携会議を年 2 回（9 月・3 月）実施し、利用者の状況の共有や、連携した支援の構築に努めた。
- (6) わされん GH 委員会にオブザーバー参加し、県下のグループホームの状況について、情報の共有に努めた。同会主催の視察研修や作業所問題研究交流集会上に職員を派遣した。

5. 行事報告

- (1) 自治会主催の誕生日会を定期的に開催した。
- (2) 10 月にゆうあい駐車場内にて、すてっぷはうす、南紀の台ホーム利用者も合流してバーベキュー交流会を開催した。なないろ、ほわいとホームはホーム別でそれぞれ行った。
- (3) 年末の忘年会、年度末に食事会として外出に出かけた。車椅子利用者も参加できるよう、店舗の協力も頂きながら開催することができた。
- (4) 日中事業所等で検診を受けられていない利用者に対して、健康診断を受けられるよう支援した。また、特定健診の通知のあった利用者については、本人の希望に基づいてその検査を受けられるよう支援した。
- (5) 防災訓練を年 2 回実施し、火災や水災害などに対応した訓練を実施した。

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【介護サービス包括型 共同生活援助】	
定員	令和 6 年 4 月 共同生活援助 44 人 短期入所 2 人	令和 7 年 3 月 共同生活援助 44 人 短期入所 2 人
実利用者数	令和 6 年 4 月 GH 43 人	令和 7 年 3 月 GH 41 人

	短期入所 4 人	短期入所 4 人
平均利用者数	令和 6 年 4 月 42.3 人	令和 7 年 3 月 39.9 人
職員常勤換算配置数	令和 6 年 4 月 世話人 10.6 人 生活支援員 2.9 人	令和 7 年 3 月 世話人 11.6 人 生活支援員 2.9 人
年間稼働日数	総稼働日数 365 日	休日開所日数

② 利用実績（令和 6 年度月別）

共同生活援助	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	42.3	42.1	43.0	41.9	40.3	39.8	40.0	40.4	40.1	39.4	39.8	39.9
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

年間平均利用者数：40.8 人

【内訳】 ゆうあいホーム：15.5 人 ほわいとホーム：9.1 人 南紀の台ホーム：6.2 人
な な い ろ：6.7 人 すてっぷはうす：3.0 人 短 期 入 所：0.5 人

区分別平均利用人数

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
平均人数	4.8 人	16.9 人	12.8 人	5.1 人	0 人	1.3 人

短期入所利用実績：延べ 172 日

短期入所	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ利用日数	22	16	13	9	20	13	12	13	13	5	17	19

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	計
男	0	3	4	5	9	3	3	27
女	0	1	1	4	4	3	1	14
計	0	4	5	9	13	6	4	41

平均年齢：50.6 歳

④ 利用者の区分

【ゆうあいホーム】

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	5 人	16 人	14 人	5 人	0 人	1 人

【短期入所】

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
人数	0 人	5 人	5 人	2 人	0 人	1 人

⑤ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	33 名
知的障害	8 名

【訪問介護等事業】

令和 6 年度 訪問介護支援センターくりっぷ事業報告（案）

1. 運営状況

安定した運営を継続するために新規利用者の獲得に努めるとともに、質の高いサービス提供に向け研修を充実させた。また、年々増加傾向にある利用ニーズに対応していくために職員体制の充実を図り主任 2 名体制とした。

2. 事業報告

（1）事業概要

① 身体介護（居宅介護・訪問介護）

- 入浴介助…入浴の介助又は、入浴が困難な方は体を拭く（清拭）などを行った。
- 排せつ介助…排せつの介助、おむつ交換を行った。
- 食事介助…食事の介助を行った。
- 体位変換…体位の変換を行った。

② 家事援助（居宅介護・訪問介護）

- 調理…利用者の食事の用意を行った。
- 洗濯…利用者の衣類等の洗濯を行った。
- 掃除…利用者の居室の掃除を行った。
- 買い物…利用者の日常生活に必要な物品の買い物をを行った。

③ 通院介助（居宅介護）

- 通院先での受診等の手続き、移動等の介助を行った。

④ 移動支援（居宅介護）

- 移動時及びそれに伴う外出先において必要な移動の支援を行った。

⑤ 同行援護

- 視覚障害者を対象とした外出支援を行った。

⑥ 個別処遇関係

- ・サービス等利用計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。
- ・個別支援計画の作成を行い、本人の承諾を得た後にその計画に沿って福祉サービスの提供を行った。

3. 研修・訓練

（1）BCP の作成と研修の実施

- (2) 身体拘束適正化委員会の開催
- (3) 食中毒及び感染症の予防のための指針の作成
- (4) 月次研修の実施

4. その他の活動

- (1) 特になし

【数値実績】

施設名	訪問介護支援センター		利用者内訳	
利用者数	R6 年 4 月 54 人	R7 年 3 月 65 人	自立支援 53 人	介護保険 12 人
ヘルパー体制	R6 年 4 月 正職 1 名 常勤契約 5 名 登録 8 名 計 14 名	R7 年 3 月 正職 2 人 常勤契約 5 名 登録 6 名 計 13 名		
年度中の入退所者	入 所 退 所	9 人 2 人		
	休 止 中	3 人		
利用市町村内訳	田辺市	小計 48 人	36 人	12 人
	白浜町	小計 11 人	11 人	0 人
	みなべ町	小計 3 人	3 人	0 人
	上富田町	小計 2 人	2 人	0 人
	すさみ町	小計 0 人	0 人	0 人
	その他	小計 1 人	1 人	0 人

昨年度実績 54 人

田辺市	42 人
白浜町	8 人
みなべ町	3 人
上富田町	人
すさみ町	人
その他	1 人

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 陽だまり事業報告（案）

1. 運営状況

令和 6 年度の陽だまりは登録者 28 名でスタートし、3 月末時点での登録者は 28 名であった。利用者数の内訳は新規利用者が 1 名であり、退所者は 1 名であった。退所理由は、事業所への魅力がなくなったとの理由であった。新規利用者については、別の B 型事業所から 1 名で、初めてはまゆう支援学校卒業生の受け入れであった。

作業場が狭いこともあり、5 月以降からは新規利用者の受け入れはやめているが、見学や実習の受け入れは引き続き行っている。ゆつたりと少人数で作業ができる場所が必要であり、野の花亭の使用許可を家族会と話し合っている状況である。来年度から、野の花亭の改装（荷物の片付けなど）が終わり次第、月、水、金と週 3 回の午前中のみ作業場として使用する予定である。

また、鍼灸医が週 1 回往診に来てくれていたが、鍼灸医が新たな事業を始めるため往診が難しくなるとのことで、3 月末をもって終了となる。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 授産活動

- i 亀井商店（トイレ掃除用ブラシ包装、掃除用スポンジ包装、スポンジの生地折り）
作業工程を細分化することにより、全利用者が作業に関わっている。また、3 月から新しい作業（スポンジの生地折り）をもらうことによって、作業の幅が広がり、少人数での作業が可能になった。
- ii OFM（電子部品組み立て）
細かい作業であるが、利用者全員が関わる事ができている。ただ、日によって貰える量が少ない時もあり、収入にムラがある。
- iii うめよし（梅のヘタ取り、梅の実のカット）
食べ物を扱うので衛生面に気をつけるため、白衣に着替えて作業を行っている。それが、しんどい利用者がいるので中々参加人数が増えなかった。また、できるペースも遅いため、来年度には終了予定とする。
- iv こころの売店（紀南こころの医療センター内売店業務）
昨年度に引き続き、売店の時間の延長やお盆休みの開店希望があったため、月、木を 16:00 まで延長。お盆休みも 1 日だけ開店して要望に応える。
- v 夏季・冬季物品販売活動（そうめん、ちゃんぽん）

各工程（納品書・請求書の用意、お礼状がき、パソコン入力、物品仕分け、物品配達）に利用者が関わっており、意欲的に取り組むことができている。物品販売は、昨年に比べると落ちている。

vi チョコレート販売（売店、ビッグU、喫茶ゆうとぴあ）

ポップやデザイン変更、物価高による値段の変更を行った。また、月に1回事業所（かへむ）への訪問販売を行い、収益につながっている。

② 生活支援活動

- （1）掃除、昼食準備、食器洗いなど日常生活能力の維持、向上に努めた。
- （2）ラジオ体操や散歩、スポレクなどプログラムに取り入れ、利用者の健康増進のための取り組みを行った。また、年に1回の健康診断を実施し、必要に応じて関係機関や家族との連携に努め、支援を行った。
- （3）日常生活の改善や充実のため、買い物支援を定期的に行った。
- （4）金銭の相談や管理、申請書類の相談や同行、身だしなみ等について助言を行った。
- （5）休日時に緊急対応が必要な利用者に対して、転送電話で相談支援を行った。

③ 個別処遇関係

- （1）サービス等利用計画をもとに、個別支援計画を作成し、利用者の意向や課題を確認し、支援の方向性、評価、検証を行った。
- （2）利用者の日々の状態を把握し、必要な支援及び助言、生活相談を継続して行い、必要に応じて、受診同行、家庭訪問、関係機関と連携した支援を行った。
- （3）一般就労または、他事業所（A型、B型等）へのサービス変更の際には、問題なく移行できるよう関係機関と連携して支援を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

- （1）熊野高校看護学生を受け入れ、事業所の活動等を伝える取り組みを行った。
- （2）昨年に引き続きバザー活動に参加。いのぶたダービー、大塔夏祭り、消防フェスタ、人権フェスタ、ふれあい文化祭と年間5回参加できた。バザー活動を通じて利用者が地域社会と繋がり、社会での役割を実感できるような取り組みを行った。

4. その他の活動

- （1）年間23日の休日開所を行い、作業だけでなくドライブや調理実習など余暇支援にも取り組んだ
- （2）毎月、利用者の趣味や創作活動の幅を広げるため、クラブ活動を行った。
- （3）自力通所が難しい利用者へ送迎を行い、安心、安全に運転ができるよう、定期的な車両点検を実施した。

- (4) 職員の直接処遇向上のため、外部研修への参加を積極的に行った。
- (5) 施設建物安全点検を月 1 回実施し、事故や怪我が発生しないよう定期的に確認を行った。
- (6) 年 2 回の防災訓練を実施し、必要に応じて防災物品の点検を実施した。また、利用者の避難場所の確認を行った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	4	外食	休日開所 20 (土) 白浜ドライブ
	16	自治会	
	19	クラブ活動	
	25	スポレク	
5	2	外食	休日開所 3 (金) イノブタバザー 18 (土) ドライブ
	14	自治会	
	24	クラブ活動 (釣り & ライト作り)	
	30	スポレク	
6	11	自治会	休日開所 8 (土) 作業 22 (土) 作業 & 調理実習
	14	クラブ活動 (釣り & どら焼きづくり)	
	17	新庁舎カフェ	
	30	スポレク	
7	4	外食	休日開所 6 (土) 職員のみ出勤 20 (土) ドライブ
	16	自治会	
	19	買い物支援	
	31	納涼会	
8	8	外食	休日開所 3 (土) 作業 14 (水) 売店 & 作業 24 (土) レク (スカットボール)
	9	大掃除	
	20	自治会	
	23	クラブ活動 (カラオケ & DVD 鑑賞)	
9	10	自治会	休日開所 14 (土) 作業 29 (日) 大塔夏祭りバザー
	12	健康診断	
	13	健康診断	
	17	買い物支援	
	19	健康診断	
	27	誕生日会	
10	2	赤い羽根共同募金 (街頭募金活動)	休日開所 13 (日) 消防フェスタバザー 19 (土) グラウンドゴルフ大会
	3	運動会練習	
	7	外食	
	11	やおき運動会	
	15	自治会	
	18	BBQ	
	22	マリンと川遊び	
	29	クラブ活動 (釣り & カレンダー作り)	
11	5	白浜ひらひら T シャツアート見学	休日開所 2 (土) アウトドア体験 16 (土) 人権フェスタバザー
	11	カラオケ	
	12	自治会	
	21	スポレク	
	26	防災学習会	
	29	クラブ活動 (釣り & ミサンガ作り)	
12	2	紅葉	休日開所 7 (土) 作業
	10	自治会	

	12 13 16 23 27	ミュージッククラウンショー クラブ活動（カレンダー作り&調理実習） クリスマス会&忘年会 買い物レク 大掃除	21（土）作業
1	6 14 17 20 24	初詣&外食 自治会 クラブ活動（ボッチャー） 外食 新年会	休日開所 18（土）作業 25（土）レク（スカットボール&輪投げ）
2	7 12 17 28	日帰り旅行（勝浦） 自治会 外食 クラブ活動（DVD鑑賞&カレンダー作り）	休日開所 1（土）作業 16（日）ふれあい文化祭
3	6 11 14 21 26	みなべ梅林 自治会（役員改選、誕生日会） 防災訓練 買い物支援 忘年度会	休日開所 8（土）作業 22（土）作業

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援B型】	
定員	令和6年4月 20人	令和7年3月 20人
実利用者数	令和6年4月 28人	令和7年3月 28人
1日平均利用者数	令和6年4月 22.1人	令和7年3月 23.1人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 6人	令和6年3月 6人
年間稼働日数	総稼働日数 262日	休日開所日数 23日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	売店	1,720,000円
	内職作業	1,240,817円
	自主製品（チョコレート）	444,475円
	物販（そうめん、ちゃんぽん）	428,600円
	その他（バザー他）	419,390円
		計 4,253,282円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 12,731 円	実績 月額 12,956 円
-----------------	---------------------	-------------------

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	22.1	22.1	21.4	21.0	19.7	21.0	20.6	22.0	21.8	21.9	21.7	23.1
開所日数	22	23	22	23	20	21	24	22	22	21	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	0	1	1	3	4	7	16
女	0	1	2	0	5	4	12
計	0	2	3	3	9	11	28

（平均年齢 53.8 歳）

④ 障害種別 ※重複あり

障害名	利用者数
精神障害	23 名
知的障害	6 名
身体障害	1 名
手帳未取得	0 名
その他	0 名

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 ハモニティー事業報告（案）

1. 運営状況

令和 6 年度ハモニティーは、定員 20 名、登録者 38 名でスタートする。令和 6 年度中の新規利用者は 11 名、退所者は 5 名であった。退所者 5 名についての退所理由の内訳は、A 型事業所への移行が 3 名、転居によるものが 1 名、福祉サービスの利用辞退が 1 名。新規利用者については、支援学校卒業生 1 名、他法人 B 型事業所から 1 名、法人グループホームから 1 名、地域在宅の方が 8 名という状況であった。

令和 6 年度は、令和 4 年の分場設置時の目標でもあった定員増を実現化することができ、令和 6 年 7 月に、分場を従たる事業所へ、定員数を 20 名から 30 名へと変更することになった。

売店事業については、令和 6 年 5 月に市民総合センターから引っ越し、新庁舎に移転オープンする。営業日が基本開庁日で、営業時間が 8 時 15 分から 17 時 15 分であること、また、県証紙や高額印紙の取り扱いや仕入れ、掛け売りやスマホ決済、他法人物品販売管理などの手続きや処理が多く、業務が煩雑であるため、職員 2 名体制で運営にあたってきた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 請負作業

i 亀井商店（洗浄用スポンジ包装、ボディータオル包装など）

作業が途切れることがなく受注でき、軽作業であるため、多くの利用者が従事することができた。

ii OFM（電子部品の容器へのセット）

陽だまりと連携しながら、基本、毎日作業をいただき、作業内容からも人気で多くの利用者が従事することができた。

iii 紀伊民報（新聞帯封）

やおき工房と連携しながら、夕刊の帯封業務を継続して取り組むことができた。

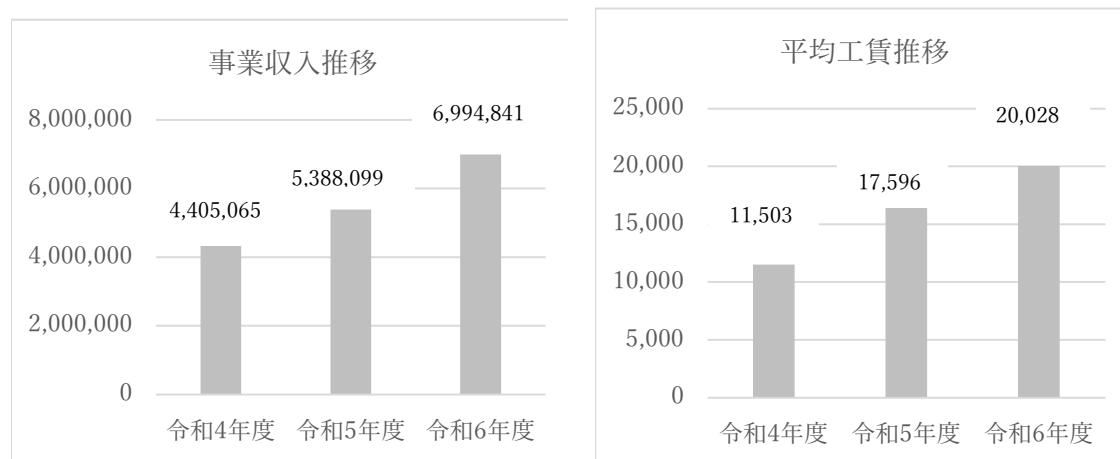
iv 売店ピュア、カフェカミィーノ

ピュアにおいては引っ越しから始まり、レジや個人売り掛けのシステムの導入など、大きな変化の年であったが、田辺市職員組合からの協力も得ながら、無事にオープンすることができた。市民総合センターの頃より、客層が増え、地域住民の方や、学生、子どもたちも多く利用してもらえるようになり、仕入れ商品の工夫をおこなってきた。夏季休暇はお盆休みが設けられないため、売店担当職員が交代で出勤し対応した。

カフェについては、週 1 回月曜日午後から職員 1 名利用者 2 名の体制をとり、利用者にとっては接客や飲料づくりなど貴重な就労体験の機会となった。

- v 紀州うめまさ(梅商品包装、DM印刷等)
DM チラシ印刷の作業が主で、作業料にばらつきがあったが、多い時にはまとまった収入が得られた。
 - vi 福梅本舗(梅商品包装)
作業内容は、利用者も従事しやすいものであったが、作業料にばらつきがあり、納品にも時間がかかるため、縮小していくこととした。
 - vii UES (絨毯見本帳作成、災害用簡易トイレの包装、日用商品包装等)
受託作業が安定して得られ、企業内就労の提案もいただき、収入増につながった。
 - viii 株式会社ワークスタジオ (衣類、制服仕分け、裁断前処理)
毎月決まった委託料に加えて、作業料に応じて作業費用をいただけるため、継続して取り組んできた。
(作業実績) ファンケル、イオン、パタゴニア、東横イン、SMBC 三井住友、大丸、スギ薬局、無印良品、ローソン、モリリン
- (2) 古紙・空き缶・古着回収
地域交流を兼ねた作業として継続しておこなってきた。
(主な回収先) 山本スポーツ、和歌山電工、神島高校、田辺高校、第一小学校、第二小学校、高雄中学校、横田、大都環境サービス、米喜、二宮、山根酒店、堀齒科)
- (3) 印刷物受注販売
法人内の印刷物、愛の園、小川クリニック等から定期的に注文をいただいていた。
- (4) 自主製品製造販売 (竹箸・キーホルダー・羊毛フェルト・縫製品等)
製作が得意な利用者の作業としておこない、バザーや売店で販売をおこなってきた。

【事業収入及び平均工賃推移】



※令和5年度と比較すると、事業収入は約160万円の増収、平均工賃は2万円を超えることができた。要因としては、株式会社ワークスタジオからの委託作業が安定して得られ、受

注量も多くあった。また、株式会社 UES からは受託作業が増え、さらに企業内就労の提案もいただき、企業内就労では 3 か月間で約 70 万円の収入を得ることができ、そうしたことが増収の大きな要因となった。

② 生活支援活動

(1) 日常生活

- i 清掃や食器洗いの習慣的な取り入れ。
- ii レクリエーションの機会を使った買い物支援。
- iii 茶話会やドライブなどの余暇活動。

(2) 健康

- i 健康診断の実施（はまゆう病院）。
- ii ラジオ体操や体重測定
- iii レクリエーションの機会を使った散歩や軽い運動。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画の作成、利用者を交えたサービス担当者会議の実施。
- (2) 各種サービスや資源の情報提供と活用のための援助。
- (3) ケース会議やケア会議の開催、介護事業所との連絡調整、関係機関との連携。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 古紙・空き缶・古着回収事業を通して地域の方々との交流。
- (2) 併設道路脇の除草作業の実施(4 回／年)。

4. その他の活動

- (1) 避難訓練(2 回／年) 令和 6 年 11 月 26 日・令和 7 年 3 月 14 日(ハモニティー)
令和 6 年 11 月 26 日・令和 7 年 3 月 15 日(ハモニティーst+)
- (2) 施設建物安全点検(1 回／月)
- (3) 車両点検(1 回／月)

5. 行事報告

【ハモニティー】

月	日	行事等	備考
4	4 11 18	花見ドライブ 外食 買い物	平草原・とれとれ市場 和わ パビシ
5	9 16 23	釣り&ボードゲーム 買い物 新庁舎カフェ見学	パビシ

6	4 13 20	野球観戦 釣り&ボードゲーム 外食	スポーツパーク 焼肉三国一
7	4 11 18	食事会 買い物 茶話会	施設内（そうめん&お寿司） パビシ 施設内（かき氷）
8	8 22	外食 買い物	和わ パビシ
9	12 19 28	買い物 茶話会 バーベキュー	パビシ 八起焼
10	3 11 17 25	運動会練習 やおき運動会 買い物 遠足	大屋体育館 スポーツパーク パビシ エネルギーランド
11	14 21 28 28	買い物 カラオケ ドライブ 防災訓練	パビシ 龍神 火災を想定した避難訓練
12	13 19 26	忘年会 買い物 クリスマス会	ホテルキーテラス パビシ 事業所内でパーティー
1	6 16 24 30	初詣 茶話会 やおき新年会 ドライブ	闘鶏神社 ぜんざい ビッグU
2	13 15 20 27 28	買い物 ふれあい文化祭 ドライブ 健康診断 健康診断	パビシ ハナヨ みなべ梅林 はまゆう病院 はまゆう病院
3	13 14 27	買い物 防災訓練 外食	パビシ 津波、地震火災を想定した避難訓練 とれとれ亭

【stretch+】

月	日	行事等	備考
4	13	カラオケ	CLUBDAM7
5	11	外食	とれとれ亭
6	8 22	パフェ作り たこやきパーティー	
7	4 20	食事会 ドライブ	素麺・寿司 エビカニ水族館
8	3 24	調理体験 外食	カレー・かき氷 焼肉三国一
9	7 28	みたらし団子作り バーベキュー	
10	11 19	やおき運動会 グラウンドゴルフ(ボラ事業)	田辺スポーツパーク 上富田スポーツセンター

11	2 8 16 28	アウトドア交流会(ボラ事業) 遠足 ふれあい人権フェスタ 防災訓練	古道ヶ丘 アドベンチャーワールド カッパーク 火災を想定した避難訓練
12	7 20 21	カラオケ 忘年会 クレープ作り	CLUBDAM7 ホテルキーテラス
1	18 25	調理体験 買い物・外食	豚汁、おむすび、おしるこ パピシ・マクドナルド
2	15 26	ふれあい文化祭 健康診断	ハナヨ はまゆう病院
3	1 15 15	観梅・外食 防災訓練 菓子作り(クッキー)	みなべ梅林・丸源ラーメン 津波、地震火災を想定した避難訓練

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援B型】	
定員	令和6年4月 20人	令和7年3月 30人
実利用者数	令和6年4月 38人	令和7年3月 42人
1日平均利用者数	令和6年4月 24.5人	令和7年3月 26.8人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 8人	令和7年3月 9人
年間稼働日数	総稼働日数 263日	休日開所日数 25日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	受託請負	5,766,539
	古紙, 空き缶, 古着	441,735
	印刷	485,030
	自主製品	90,020
	その他(バザー・物品販売等)	211,517
		計 6,994,841 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 18,200 円	実績 月額 20,028 円

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	24.5	24.3	24.9	24.8	26	27.9	26.1	25.9	28.2	26.5	25.4	26.8
開所日数	23	23	22	24	19	21	23	22	22	22	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和7年3月末時点）

ハモニティー

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	1	3	10	5	19
女	0	0	0	2	2	1	5
計	0	0	1	5	12	6	24

stretch+

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	2	5	0	1	0	0	8
女	2	5	2	1	0	0	10
計	4	10	2	2	0	0	18

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	33名
知的障害	9名

【障害者就業・生活支援センター事業】

令和6年度 紀南障害者就業・生活支援センター

アンカー事業報告（案）

1. 運営状況

田辺市及び西牟婁郡とみなべ町を圏域とし、障がい者の方々（難病を含む）の就業と就業に伴う生活に関するニーズに基づき「働き続けられる」ことを目標にし、関係機関との連携にて支援を行いました。

1) 65 才の壁

アンカーとして、65 才のハッピーリタイアを迎えられることを目標にしています。今年度は4名の方が65才になりました。2名の方（鬱、コルサコフ診断）は、問題なく65才を迎えることができました。65才になっても、勤務日数などの調整はありましたが働き続けています。統合失調症の診断を受けている2名の方が、64才から65才になる間に精神的不調、認知機能低下が一気に現れ、勤務時間、勤務日数の調整などを行い支援しました。しかし、仕事を継続できる状態にならず、会社にご迷惑をかけていたため、早期離職を余儀なくされました。

2) 復職に向けて、また再就職に向けての福祉サービス利用

今年度より創設された内容である『休職からの円滑な復職のための就労系福祉サービスの一時的な利用』を活用し、就職前に利用していた施設を再利用することで、順調に予定通り復帰することができました。福祉サービス利用を1日2時間、週3日からスタートし、時間を伸ばし、日数を伸ばし、最終的には週20時間働くことができる近い状態での利用をしました。復帰に向けて、雇用先とは休職前の雇用契約時間ではなく、週20時間の契約に変更していただきました。復職以降、順調に勤務することができおり、復帰1年間は週20時間勤務を継続していけたらと考えています。

精神的な不調から離職された方の福祉サービス再利用からの再就職ケースもありました。精神面の安定を図るために、地域活動支援センターへ通所しながら、アンカー職員との定期的な面談を通して、精神面、体調面の状態把握、パターン化を一緒に分析し、次のステップに進むため、就職前に利用していた施設で再就職に向けた訓練をし、分析から以前と違った勤務時間で再就職することができました。

この2ケースから、就職前に利用していた施設を再利用できることが、本人にとっての安心、不安軽減となり、うまく復職、再就職できたと感じました。

3) 職場環境による不安定

数年間順調に働き続けていたかと思えば、環境変化にうまく対応できないケースが数件ありました。人事異動による変化、会社の手法変化、キーパーソンの長期休暇、委

託先等の変更により、精神面不安定となる方がおられました。変化に対応するには、時間を要するため、そういった部分を企業と調整をする必要がありました。定期面談、会社との調整で数ヶ月後には、安定することができました。そういった面では、本人さんたちも成長したかなと感じました。

4) 問題行動

離職を余儀なくされた2ケースがありました。1つは、警察のお世話になることになり、生活歴の中でも何度かあったようです。事なきで済ませてきたこともあったようですが、今回は懲戒解雇という形になりました。癖の部分があるのかもしれないとのことで、地域障害者相談支援を受託している『にじのわ』に関わってもらい、医療機関へ繋ぎ依存治療を開始しました。

もう1つは、世間でも問題になったおふざけ動画に近い問題行動でした。本人は悪いと思う認識がありながらも、相手を不快に思わせるつもりはなかったようでした。周りがどのように思うのかとの考えだけでの行動でした。こんなことになるとは思っていませんでした。かなり落ち込みました。家族も障害を持っているのでとの思いがありましたが、動画を拡散した人たちも『こんなことになるとは』との考えだったことの説明をしました。その結果、一緒に働くことが難しく、離職を余儀なくされました。

5) 生活問題

GH生活から単身生活へ移行し、3年経過した頃に身体面の不調影響が出たため、自宅を訪問すると、ゴミ屋敷状態になっていました。そのためヘルパーを利用し、家事援助を受け、通院同行も行い、単身生活を継続しながらの就業・生活支援を行いました。しかし、ヘルパー利用から2年経過しても身体面が改善されないため、教育入院をする形となり、自宅を訪問すると、服薬をしていない状態がわかりました。そのため、単身生活は無理であると判断し、GH生活の再入居となりました。服薬管理もしっかり対応することで、身体面の改善が図られています。

金銭管理ができていない方です。本人と定期面談をしていましたが、金銭面に課題があることが把握できず、企業側が把握したのも、他機関からの情報でした。企業の方が、金銭面の状況把握と金銭管理を一時的に対応してくれていました。企業がずっと対応するわけにもいかないため、行政機関に相談し、権利擁護が利用できるまで、アンカーが対応する引継ぎを企業から行いました。当面のやりくりを企業と一緒に取組み、現時点では形になりつつあります。

6) 障害受容できていないケース対応

本人が障害受容できていないケース、家族が障害受容できていないケースがありました。本人が受容できていない場合は、支援に乗ってこない、支援がうまくいかないとなり、周りが疲弊してきました。家族が受容できていない場合、本人は支援を受けたいのに、受けるためにストレスがかかる。家族との間に挟まれる。気持ちをわかってもらえない。過度に求められるなどの過重になっています。支援者が家族理解を求めようと

動きたい気持ちはありながらも、本人が拒否をする、自分は支援を受けるべき対象ではないのではとの思いになっているケースが多くなっています。

7) 雇用保険に満たない労働者への対応

雇用保険に満たない労働に移行となったケースがありました。精神の方については、不調から働く時間を減らしたい。65 才の案件のように、認知機能低下による時間調整はありました。その場合でも雇用率に算入できていたので問題はありませんでした。軽度の知的障害を持たれた方で、今までとの会社の状況が変わり、携わってもらう仕事がないなどの理由で、雇用率も関係がない企業は、シフトを減らしてきました。1 人は転職を視野に入れてもらうことはできましたが、もう 1 人の方は、転職に向けての見学、体験を行いました。環境が変わることに不安を持ち、現職場でいいとの判断をされました。

2. 事業報告

①就労支援活動

(1) 相談・支援業務の実施【随時】

- i 相談に応じ、就業及び就業に伴う日常生活上の問題について、必要な指導及び、助言その他の援助を行う。
- ii 事業主に対して就職後の雇用管理に係る助言等を行う。
- iii 和歌山障害者職業センターの職業評価、事業所への職場実習の斡旋・支援を行う。
- iv 関係機関との連絡会議を開催し、機関との連携を行う。
- v 中高年齢者の継続雇用に関する相談を行う。

(2) 求職支援活動【維持】

- i ハローワークへの同行等による求人検索
- ii 地域新聞等広告紙による求人への相談と対応
- iii 独自の企業開拓
- iv 他府県への移住、転職希望者への移住先支援機関との調整（リモート含）

(3) 職場定着支援【随時】

- i ジョブコーチによる職場定着支援（訪問型職場適応援助者）
- ii 就職後の作業支援（指導）、就労後数年経過した企業への不定期巡回訪問

(4) 地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

- i 関係機関との連絡会議・交流会等の開催

西牟婁圏域障害児・者相談センター、田辺公共職業安定所、特別支援学校との情報共有、研修会【11/19】

紀南障害者就業・生活支援センター アンカー運営協議会【3/5】

就労移行事業所、定着支援事業所、特別支援学校との連携会議、情報共有【月 1 回】

公共職業安定所との連絡会議、情報交換会【7/25、3/25】

ii 他の就労支援機関等へのノウハウ提供を図るための研修会などの開催

参加機関：定着支援事業所 3 カ所、計画相談担当者 2 カ所、田辺公共職業安定所

【7/11】

iii 中小企業を中心とした雇用管理の課題を共有、相談するための企業担当者等との交流会、相談会の開催【実施なし】

iv 医療機関等の専門的分野の有識者を講師に招き、地域の支援機関、企業担当者などを対象とした研修会の開催【実施なし】

v センター同士のノウハウを共有するため、同じ地域事情の他地域のセンターとの研修、交流会を開催【5/22、6/13、12/10】

(5) 職場定着促進のための在職者の交流活動の実施

i 伝言ダイヤル体験【10/1】

ii 防災個人カード作成【1/7】

(6) ピアサポート活動の実施

i A 型サービス事業所プランコートへの講演【3/4】

ii 一般高校への講演【3/5】

(7) 和歌山県発達障害者支援センターとの連携（アドバイザー委託）【ケースなし】

(8) 就業支援・職場定着支援担当の会議・研修等

i 和歌山県障害者就業・生活支援センターNW 会議【5/22、6/13、10/16、12/10、3/12】

ii 全国就業支援 NW 定例研究会【10/28～10/29 オンライン】

iii 近畿ブロック経験者交流会【10/25 オンライン】

iv 主任職場定着支援担当者の経験交流会【不参加】

v 全国フォーラムへの参加【1/31～2/1】

② 生活支援活動

(1) 生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の日常生活の自己管理に関する助言

i 医療同行、服薬管理についての助言、金銭管理

(2) 住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言

i 行政手続き補助および代行

ii ワークスクラブの活動補助【月 1 回】【週 1 回】

(3) 関係機関との連携調整・会議

i 全国就業支援 NW による生活支援ワーカー研修会【不参加】

③ 個別処遇関係

(1) ジョブコーチ支援の実施【対象者 6 名】

(2) 就労移行事業所利用者の一般就労相談についての連携会議【月 1 回】

(3) 職場定着支援事業利用者の定着支援についての連携会議【月 1 回】

- (4) その他福祉サービス利用者、圏域相談センター利用者（在宅）の一般就労相談についての連携会議又は個別対応
- (5) 個別ケースにより家庭訪問、グループホーム訪問の実施
- (6) 定期的な面談が必要な利用者への対応（リモート面談希望者にはリモート対応）

④ 余暇活動支援

- (1) 職場定着促進のための在職者の交流活動
 - i ワーカーズクラブ活動補助

3. 地域貢献及び地域交流活動

特になし

4. その他の活動

- (1) 障害者就業・生活支援センター事業についての学習会
- (2) 職場実習支援制度や障害者雇用支援制度の学習会
- (3) 就職に向けてのプロセスの学習会

5. 行事報告

月	日	就労	生活	在職者交流活動
4	2	在職者の交流活動	在職者の交流活動	定例会議
5	7 22	在職者の交流活動 県下7センター会議	在職者の交流活動	定例会議
6	4 13	在職者の交流活動 県下7センター研修	在職者の交流活動	定例会議
7	2 11 25	在職者の交流活動 関係機関との交流会 ハローワーク連絡会	在職者の交流活動	定例会議
8	6	在職者の交流活動		定例会議
9	3	在職者の交流活動		定例会議
10	1	在職者の交流活動	在職者の交流活動	伝言ダイヤル体験
	16	県下7センター会議		
	9	在職者の交流活動（旅行）	在職者の交流活動（旅行）	一泊旅行
	20	在職者の交流活動（旅行）	在職者の交流活動（旅行）	一泊旅行
	28 29	全国定例研究・研修会 全国定例研究・研修会		
11	5	在職者の交流活動	在職者の交流活動	定例会議
	19 28	関係機関との交流会 近畿ブロック交流会		
	3	在職者の交流活動	在職者の交流活動	定例会議
12	10	県下7センター研修		
	19	自立支援協議会全体会		
1	7	在職者の交流活動	在職者の交流活動	防災個人カード作成

2	14 15 28	在職者の交流活動 在職者の交流活動 全国 NW フォーラム	在職者の交流活動 在職者の交流活動	定例会議 食事会
3	1 4 5 12 25	全国 NW フォーラム 在職者の交流活動 運営協議会 県下 7 センター会議 ハローワーク連絡会	在職者の交流活動 運営協議会	定例会議 ピアサポート

6. 数値実績

①利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	5	76	49	34	28	11	203
女	4	33	26	25	16	3	107
計	9	109	75	59	44	14	310

②障害種別

障害名	利用者数
精神障害	134 名
知的障害	155 名
身体障害	18 名
手帳未取得	2 名
その他	1 名

③実績数値

	身体	知的	精神	その他	合計
相談・支援件数	54	3,561	3,504	37	7,156
職場実習件数	1	9	15	0	25
就職者数	1	6	17	1	25
職場訪問による定着支援	72	1,231	909	34	2,246

就職率（一般企業への就職者数／新規求職者数） 58.1%

定着率（前年度就職者の 6 ヶ月後、1 年後の在職率）6 ヶ月後 88.5%、1 年後 73.1%

登録者数 310 名（内新規 25 名）

相談・支援件数 7,042 件

職場実習 25 件

就職者数 26 名

職場訪問による職場定着支援 2,227 件

センター長（主任就業支援ワーカー）	1 名	横矢
就業支援ワーカー	1 名	阿部
主任定着支援ワーカー	1 名	入口
就業支援ワーカー	2 名	和田・小野
生活支援ワーカー	1 名	垣本
事務補助	1 名	北山
ジョブコーチ	2 名	西岡・杉本

【地域活動支援センターⅢ型】

令和6年度 紀南地域活動支援センターSHIP 事業報告（案）

1. 運営状況

例年通り田辺市より事業を受託し、施設通所になじまない方々の場所として活動を行ってきた。利用される方のほとんどがサロン利用であり、談話・ジグソーパズル・編み物など個別でも集団でも何かと関わることができていた。生産活動としては受注生産の缶バッジ作成、農事作業での野菜収穫・法人内販売を行うが10月をもって持ち主に畑を返還することになった。6年度はアンカーへの実習参加者も1名でその後はやおき工房就労移行事業所を利用し一般就労へ。体力維持（増加）を図りレクリエーションについてはスポーツ、散歩を行ってきた。

2. 事業報告

① 就労支援活動

内職作業としては缶バッジ製作、(株)UES様より内職の受託を開始し継続。農事作業としてサツマイモを栽培。法人内での販売を行ったが10月に畑を返却した。缶バッジの受注は例年通りになった。一般就労希望者については就業センター実習への参加を勧めた(1名)。

② 生活支援活動

(1) レクリエーション活動を通じてスポーツ、調理実習、外出活動を行ってきた。

③ 個別処遇関係

- (1) 受診同行、生活相談については当事者ニーズに伴い対応。
- (2) サービス事業所への移行者(1名)。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 特になし

4. その他の活動

(1) 一部利用者のワークス活動参加。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4		スポーツレクリエーション	
5		スポーツレクリエーション	
6		スポーツレクリエーション	
7		調理実習、スポーツレクリエーション	
8			
9		スポーツレクリエーション	
10		調理実習、スポーツレクリエーション	
11		調理実習、スポーツレクリエーション、ドライブ	
12		スポーツレクリエーション	
1		調理実習、スポーツレクリエーション、ドライブ	
2		調理実習、スポーツレクリエーション、梅林鑑賞、買い物	
3		避難訓練、スポーツレクリエーション、ドライブ	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
定員	令和6年4月 10人	令和7年3月 10人
実利用者数	令和6年4月 15人	令和7年3月 17人
1日平均利用者数	令和6年4月 6.1人	令和7年3月 4.3人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 2人	令和7年3月 2人
年間稼働日数	総稼働日数 239日	休日開所日数 0日
授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	内職関係	146,360円
	農事作業	2,352円
	カフェ	446,431円
	職場実習	318,031円
	合計	913,174円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 円	実績 月額 5 4 8 円
-----------------	--------------	------------------

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	6.3	5.6	5.2	4.9	5.2	4.7	5.4	5.0	4.6	4.3	4.1	4.3
開所日数	21	21	20	22	17	19	22	20	20	19	18	20

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	0	6	4	1	1	0	12
女	0	3	1	3	0	0	7
計	0	9	5	4	1	0	19

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	7 名
知的障害	12 名
身体障害	0 名
手帳未取得	0 名
その他	0 名

【外部サービス利用型 共同生活援助】

令和6年度 サンヒルズ事業報告（案）

1. 運営状況

サンヒルズ（主）・クローバー（従）・オレンジ（従）・ユースセブン（従）・アップル（従）・レモン（従）・みなべ鹿島ホーム（従）

サンヒルズを主とし定員30名、職員配置6：1、加算12：1での支援を行ってきた。

① 利用者の動向

今年度は1名の利用者の認知機能が著しく低下したことによる支援頻度の多さに対応に苦慮した。基本的に一般就労及び一般就労を目指す方の支援ということでADLは問題ない方が多いが、この方については昨年度末より言動が変わり、急激な認知機能低下がみられ生活及び生命の危険、同居人の苦言や不調も見られたことから、退職・住居変更に至る。昨年度同様金銭的な問題が生じる方については電子決済での散財、虚言での引き出しからの散財、趣味への過剰な課金などが見られた。

同居人間の不仲問題は面談・自治会・家庭訪問を行っても解消されず、現在も継続中。

精神科だけでなく、生活習慣病・難病等での受診同行に関しても増加。

実利用定員の増減はほぼないが、利用率に関しては5年度より1名減の状態が続いている状態。これに関しては帰省頻度の増加（家族の介護、同居人不和）趣味のための外泊・休日の外出で支援ができない日が増えていることが要因となっている。

⑭ 入所・退所者の内容

入所者1名。元グループホーム利用者で単身生活に移行し継続してきたが、体調不良により単身生活の不具合が発覚したため、健康面を考慮し入居となった。

退所者1名。年度当初より認知機能の低下が著しく、生活に不具合が生じ、また、同居人にも迷惑行為が多発し、同居人からの不満・苦言が多くなる。年度末にゆうあいホーム体験を行い4月1日に移籍となった。

⑮ その他

高齢化問題・利用者の健康問題・知的障害者の生活スキルの問題は継続され増加傾向である。高血圧・糖尿病患者、またその予備軍への食事・運動等の助言。緑内障患者・難病併発者の医療送迎。生活習慣病への不安相談などが増加傾向。

一般就労継続者の諸問題から、福祉サービスへの移行者が微増傾向。

（一般就労者17名、日中福祉サービス利用者10名）

2. 事業報告

① 就労支援活動

- (1) 世話人（ジョブコーチ）の利用者実習先・就職先への訪問支援。
- (2) 作業所等との連絡調整、情報共有。

② 生活支援活動

- (1) やおき福祉会活動日の朝食・夕食提供。
- (2) 生活指導（金銭管理・清掃・服薬・身だしなみ・休日の食事・買い物他）
- (3) 医療同行（精神科通院同行、その他の医療機関への同行）
- (4) 悪天候時の出勤支援は希望者・対象者がいなかった。
- (5) 世話人の研修については虐待防止伝達研修を開催した。
3か月毎に身体拘束適正化委員会を行った。
感染症及び食中毒予防及びまん延防止委員会、研修・訓練の開催を行った。
BCP（事業継続計画）の見直しについて検討を行った。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別支援計画等の作成
- (2) 就職相談、定着相談、難病等への対応、個別の悩み相談他

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 特になし（各ホームで町内会加入、未加入のホームもあり）

4. その他の活動

- (1) 地域連携推進協議会の開催。

5. 行事報告

毎月第一火曜日 ワーカーズ会議への参加

月	日	行事等	備考
4			
5			
6			
7	27	ワーカーズ BBQ	
8			
9			
10	4 19	防災・避難訓練 1泊旅行（兵庫県）	

1 1			
1 2	1 3	運営指導（県監査）	
1			
2	1 5	ワーカーズ新年会（和わ）	
3	5	地域連携推進協議会	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【外部サービス利用型共同生活援助】	
定員	令和6年4月 30人	令和7年3月 30人
実利用者数	令和6年4月 26人	令和7年3月 27人
1日平均利用者数	令和6年4月 25.3人	令和7年3月 24.6人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 7.5人	令和7年3月 7.4人
年間稼働日数	総稼働日数 365日	休日開所日数 日

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	24.9	24.1	24.7	24.1	22.6	24.0	24.8	25.3	24.9	24.7	25.9	26.2
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和7年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	4	7	1	5	4	21
女	0	2	1	1	2	0	6
計	0	6	8	2	7	4	27

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	10名
知的障害	17名
身体障害	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 古道ヶ丘事業報告（案）

1. 運営状況

保養所事業

・田辺市から委託されている指定管理（宿泊管理）事業が、3 年更新の二年目。宿泊施設が老朽化してきており、設備等の故障が目立ってきている。お客さんの安全と安心を確保できる宿泊施設のみ稼働し、スタッフが対応できる日を営業した。

福祉事業

・利用者の退所が 3 名あった。退所の理由は、1 名は就労継続支援 B 型の形態ではむしろかしく生活介護への移動、もう 1 名は心筋梗塞により亡くなられ、もう 1 名は県外の家族のもとへ引越すことになった。現在、17 名の施設利用となっている。

2. 事業報告

① 就労支援活動

（1）田辺市委託事業

- i バンガロー清掃（宿泊、前後のセット及び清掃を行った）
- ii 施設周辺維持管理（施設備品修繕、草刈りなど）

事前に故障箇所がないか等を注意し、安全に配慮した。

（2）授産事業

i 内職作業

・ダイソーの内職を中心に作業を行った。安定した作業として取り組むことができ、生産量もアップすることができた。

・新規の作業（IPPINKA）はインターネットで販売されているサスティー（観葉植物などの湿度計）の梱包作業は、あまり注文が入らず見込んだ収入にはならなかった。

② 生活支援活動

（1）

- i 年 1 回の健康診断を実施した。
- ii 防災計画に基づき年 2 回の防災訓練を実施した。
- iii レクリエーションや一泊旅行を企画し開催した。

③ 個別処遇関係

(1)

- i 個別アセスメントを行い支援計画に基づき支援を行った。
- ii 高齢化に伴い内職をメインに作業を行い。安全に配慮した。
- iii SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、社会生活の質向上を目指した。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1)

- i 学校からのボランティアを積極的に受け入れるため、学校との会議に参加した。
- ii 町内会の運動会の実行委員となり会議に出席し、当日の運営に協力した。
- iii 地域の祭りに参加し、地域の人たちと交流を深めた。

4. その他の活動

(1)

- i 感染対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月		
6月	防災訓練	
7月		
8月		
9月	和歌山レク	
10月	やおき運動会	
11月	アウトドア体験、ソフトボール大会	
12月	旅行、クリスマス会、	
1月	初詣、やおき新年会	
2月	防災訓練	
3月		

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労支援継続 B 型】	
定員	令和 6 年 4 月 30 人	令和 7 年 3 月 30 人
実利用者数	令和 6 年 4 月 18 人	令和 7 年 3 月 17 人
1 日平均利用者数	令和 6 年 4 月 18.9 人	令和 7 年 3 月 15 人
職員常勤換算配置数	令和 6 年 4 月 5 人	令和 7 年 3 月 5 人
年間稼働日数	総稼働日数 260 日	休日開所日数 21 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	保養所委託事業関係	270,090
	喫茶	175,650
	内職、古紙・アルミ缶など	858,543
	その他	597,300
		計 1,901,583 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 9,000 円	実績 月額 10,225 円

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用 者数	16.6	17.5	15.3	15.2	13.4	15.1	15.1	15.3	15.5	14.3	14.4	14.3
開所日数	22	23	22	23	20	21	23	22	22	21	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	0	0	1	2	3	1	7
女	0	0	1	1	5	3	10
計	0	0	2	3	8	4	17

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8 名
知的障害	8 名
身体障害	1 名
その他	0 名

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 本宮くまのこ作業所事業報告（案）

1. 運営状況

退所者 2 名。1 名は高齢のため就労訓練を終了。もう一人は、以前から施設利用頻度が少なく、家族の意向で利用していたが、本人の意思で家族を説得し、利用終了となった。
現在、利用者 7 名。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 野外清掃活動

清掃作業を行うことができた。

(2) 古紙回収・アルミ缶回収

週 1 回本宮の回収拠点 8 ヶ所のアルミ缶回収を実施。

熊野鼓動・芝サッシ店・本宮社協より古紙とアルミ缶の提供。

地域住民による持ち込み。

(3) 自販機事業

本宮行政局と本宮社協の 2 ヶ所の自動販売機での販売・補充・点検。

(4) 内職作業

i 海外向け商品の梱包作業

海外向け商品のバーコード貼付け作業や梱包作業を請け負っている。

作業の量や商品の種類が増えてきていて、作業のメインとなっている。

ii 備長炭のパッキング作業

本宮町内の製炭業者より浄水用備長炭や燃料用備長炭のパッキング作業を請け負っている。

iii 新製品の開拓

去年に引き続き、熊野古道を歩く外国人をターゲットとしたお土産品の制作補助。

熊野古道を歩いた記念品を作成した。

iv マコモ茶の裁断作業

本宮町内のマコモ栽培農家よりマコモ茶の裁断作業を請け負っている。

(5) 自主製品（アクリルたわし）

本宮町内の2ヶ所の店舗で販売。少しずつ売れている。

② 生活支援活動

- (1) 年1回の健康診断の実施。
- (2) 本宮町内での週3回の買い物支援の実施。新宮市内へ月1回の買い物支援の実施。
- (3) 防災計画に基づき年2回の防災訓練実施。
- (4) レクリエーション企画、利用者旅行を再開した。
- (5) 糖尿病や肥満の方に対応した給食を提供した。

③ 個別処遇関係

- (1) 個別アセスメントを行い、個別支援計画に基づき支援を実施。
- (2) 体重コントロールが困難な利用者向けに作業前のウォーキングを実施。
- (3) 精神的に調子を崩した利用者に対しての定期的な家庭訪問を実施。
- (4) 諸事情により利用時間がずれる利用者に対しての送迎時間や利用時間の調整。
- (5) 月1回休日開所を実施して、調理実習等の生活訓練や社会性向上を目的とした取り組みを行った。古道ヶ丘と連携した。
- (6) 年に1回、地域在住者の家庭訪問を実施して、家族との連携を図った。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 本宮女性会との本宮大社近くの花壇の花植え活動（年2回）
- (2) 本宮ゆる体操部会を週一回開催。

4. その他の活動

- (1) 本宮地域に事業所活動を周知するため、月1回「くまのこだより」を発行。
- (2) 本宮地区のケア会議の参加。（本宮町内の他サービス事業所との意見交換等）

5. 行事報告

月	行事等	備考
4	花見	

5		
6	花植え	本宮女性会と合同で実施
7		
8	BBQ レク	作業所敷地内で実施
1 0	ソフトボール紅白戦	古道ヶ丘と実施
1 1	やおき運動会	
1 2	旅行、クリスマス会	古道ヶ丘と合同
1	初詣、やおき新年会	
2		
3		

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援 B 型】	
定員	令和 6 年 4 月 10 人	令和 7 年 3 月 10 人
実利用者数	令和 6 年 4 月 11 人	令和 7 年 3 月 7 人
1 日平均利用者数	令和 6 年 4 月 6.9 人	令和 7 年 3 月 6.9 人
職員常勤換算配置数	令和 6 年 4 月 3.5 人	令和 7 年 3 月 3.5 人
年間稼働日数	総稼働日数 260 日	休日開所日数 21 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	内職、自販機その他	1,602,548
		計 1,602,548 円
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 9,000 円	実績 月額 11,209 円

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	7.5	7.3	7.5	7.3	6.9	7.1	7.8	7.7	7.1	6.9	5.8	5.6
開所日数	22	23	22	23	19	21	23	21	22	21	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	0	0	1	1	0	3	5
女	0	0	0	0	2		2
計	0	0	1	1	2	3	7

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	5 名
知的障害	2 名
身体障害	0 名
手帳未取得	0 名
その他	0 名

【介護サービス包括型共同生活援助】

令和 6 年度 こどうの家・第 2 こどうの家事業報告（案）

1. 運営状況

4 月に 2 名が退去。退去理由は、病状悪化のため GH を退去し、家族との生活を始めたため。もう一人は A 型事業所を利用して車の免許も取得し、実家からの通勤を希望されたため。5 月に新規利用 1 名あり。家族が高齢で、単身生活に不安があるためグループホームを希望。現在、男性ホームに一室の空きあり。今後、空室の入居に向けて調整するとともに、入居者は古道ヶ丘の利用も含めた調整もできればと考えている。

2. 事業報告

① 生活支援活動

(1)

- i 給食サービスの実施 夕食月火水木金曜日
配食サービスを使った夕食提供を行った。
- ii 防災計画に基づき年 2 回の防災訓練を実施した。
- iii 掃除や洗濯など日常生活力を身に付けるための家事援助や調理実習の実施
- iv 病院への同行受診の実施を行った。
- v 紀南こころの医療センターやその他の病院の受診の際、山間部であるため公共交通機関の不便さを鑑み、同行し場合によっては診察の場面に付き添った。
- vi 自治会の支援として毎月定期的に実施し、ホームでの生活について利用者同士で話し合うための支援を行った。

② 個別処遇関係

(1)

- i 日々の生活費の使い方などの助言や管理支援を行った。
- ii 服薬についての助言や管理の支援を行った。
- iii 個別支援計画を作成し、利用者個々にあった支援と生活の質の向上を目指した。
- iv SST（社会生活技能訓練）を取り入れ、社会生活技能のスキルアップを目指した。
- v 家族との連携を深め、協力関係の構築に努めた。
- vi 生活場所の変更を希望した利用者に体験場所への同行支援を行った。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1)

- i 町内会へ加入している。
- ii 町内の祭りに参加し、地域との交流を深めた。

4. その他の活動

(1)

- i コロナ対策マニュアルを活用し利用者・職員の安全確保に努めた。
- ii にじのわ、サポートセンターゆう、各相談機関と連携を図った。
- iii 利用を希望する方の体験入所を実施した。

5. 行事報告

年月	行事等	備考
4月	花見	
5月	草引き	
6月	誕生日会	
7月	防災訓練	
8月	そうめん・映画鑑賞	
9月	誕生日会・BBQ	
10月	ウォーキング・外食	
11月	やおき運動会	
12月	旅行、クリスマス会	
1月	初詣、新年会	
2月	外食、入浴	
3月	誕生日会	

6. 数値実績

① 施設概要

ホーム名	こどうの家		第2こどうの家	
定員	6年4月 5人	7年3月 5人	6年4月 6人	7年3月 6人
実利用者数	6年4月 5人	7年3月 4人	6年4月 6人	7年3月 6人
職員常勤換算配置数	6年4月	7年3月	6年4月	7年3月

	3.79 人	3.79 人	3.79 人	3.79 人
年度中の入退所	入 所 退 所	0 人 1 人	入 所 退 所	1 人 1 人
利用市町村内訳	田辺市	4 人	田辺市	3 人
	白浜町	人	白浜町	1 人
	新宮市	人	新宮市	2 人
	その他	人	その他	人

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用 者数	10.0	9.7	9.8	9.7	9.9	9.9	10.5	10.8	10.8	10.6	10.3	10.3
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	0	0	1	0	3	0	4
女	0	0	0	1	4	1	6
計	0	0	1	1	7	1	10

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	8 名
知的障害	2 名
身体障害	名
手帳未取得	名
その他	名

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 龍の里作業所事業報告（案）

1. 運営状況

令和 6 年度も利用者減に伴う給付費収入の減少と物価高騰により運営状況の厳しい一年であったが、可能な範囲で工夫しながら利用者サービスに努めてきた。過疎化の進む山間部では新たな利用者を迎えることは難しく、年々先細りの一途をたどっている。

田辺市の所有物件である柳瀬出張所においては数年来の要望が実り、半額補助ながらも床板の張替え工事を行うことができた。

2. 事業報告

令和 6 年度も授産事業は安定して取り組むことができ、内職作業の効率化や自主製品の売り上げ増などが功を奏し、前年度よりさらに増収となった。地域のイベントにも複数参加した。地域の一員として住民と交流を深め、利用者の高齢化対策として、行政や医療機関との連携において健診後の保健指導など様々な対策を講じ、健康維持に努めてきた。

① 就労支援活動

(1) 内職作業

i 亀井商店…引き取りや納品もあり、仕事が切れることがないが、ボンド付け作業など工程も多く、複雑な作業を依頼されることが多い。令和 6 年度は作業の効率化を図ることができ、増収となった。

ii 龍神マッシュ…しいたけ袋のシール貼りは単純で単価もよくほとんどの利用者が行うことができています。

(2) 受託作業…龍神マッシュの実習、草刈り、収穫作業、花いっぱい運動の雑務などのほか地域に根差した活動が多かった。

(3) 自主製品…「よもぎの葉」は引き続き地元の業者、共同受注ではアクリルたわしや龍神杉のコースターなどのまとまった注文があった。新庁舎移転に伴い、売店ピュアでの焼き菓子の売り上げも好調で増収につながった。

(4) 農作業…自然薯の生育状況が芳しくなく、昨年を下回ることになった。

(5) 販売…そうめん、うどん、チョコレートの売り上げは昨年を上回ることができた。

(6) リサイクル…空き缶は持ち込みによる地域からの提供も安定し、回収作業を行うことなく作業としての負担は少ないが、古着や陶器などについては、ほとんど収益が上がらずに地元住民への貢献にとどまっている。

② 生活支援活動

(1) 健康目標においては 40 歳以上の利用者に詳細な検査項目がある田辺市の特定健診とがん検診、39 歳以下の利用者に白浜はまゆう病院での健診を実施した。特定保健指

導の対象者には保健師や栄養士の指導を受けられるよう支援した。

(2) 日常的な生活課題や金銭管理などの相談は社会福祉協議会と連携し、権利擁護や訪問支援など制度を活用し、支援を行った。

(3) 感染症予防のため、手洗いやマスク着用、黙食などを継続して行った。

事業所内では感染症対策委員会を立ち上げ、年二回の研修及び訓練を実施した。

③ 個別処遇関係

(1) 個別支援計画とサービス利用計画に基づき、主治医や家族、関係機関と連携しながら個々の課題に基づいた利用者への支援を実施した。

3. 地域交流・地域貢献活動

(1) 授産科目の「便利屋」における高齢者宅の請負作業、リサイクル活動や「花いっぱい運動」による地域住民団体との協働事業による交流活動を実施した。

4. その他の活動

(1) 避難訓練（年二回）を実施。

(2) 健康診断の実施。（田辺市特定健康診査、白浜はまゆう病院）

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	2	花見（季楽里龍神）	
	27	ねんいちマーケット参加	
5	24	買い物レク（コーナン、王将、パビリオンシティ）	
7	5	健康診断（39 歳以上）	
8	2	買い物レク（イオン和歌山）	
	11	大掃除	
9	6	敬老慰安会	
	29	日帰りバス旅行（神戸方面）	
10	11	やおき運動会	
	25	避難訓練	
11	23	翔龍祭	
	27	健康診断（38 歳以下）	
12	27	大掃除	
	28	忘年会	
1	11	初詣（本宮大社）	
	24	やおき新年会	

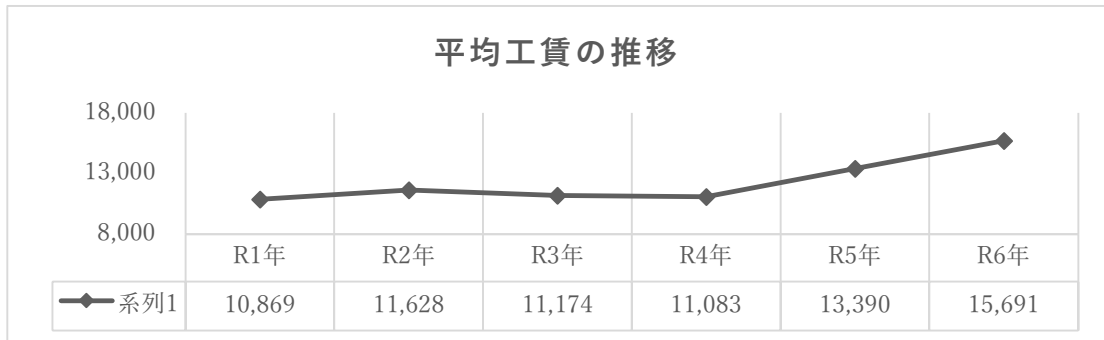
2	15	ふれあい文化祭	
3	7	避難訓練	
	14	買い物レク(イオン和歌山)	

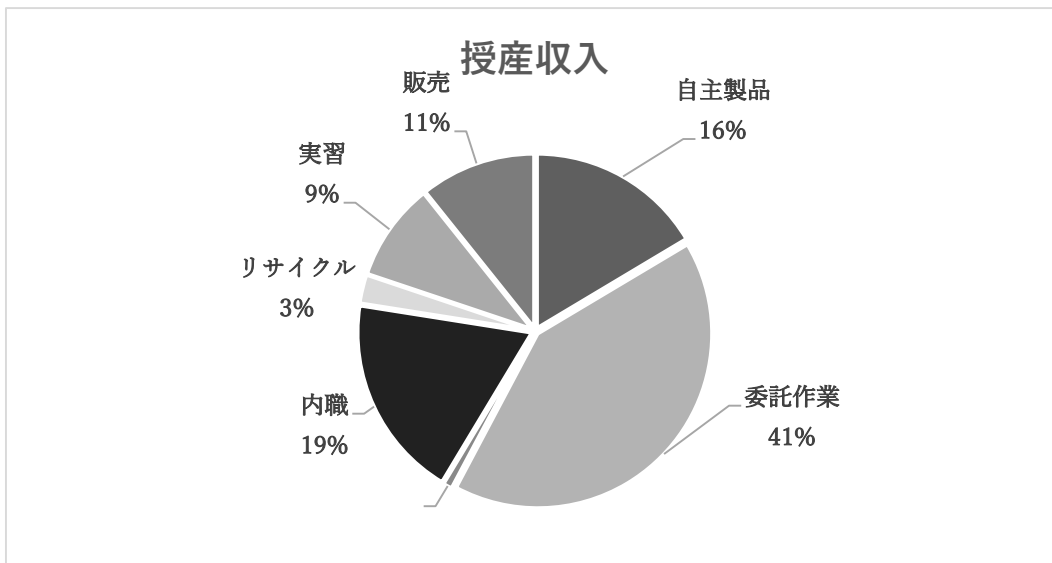
6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援B型】	
定員	令和6年4月 20人	令和7年3月 20人
利用者数	令和6年4月 16人	令和7年3月 15人
1日平均利用者数	令和6年4月 12.8人	令和7年3月 10.6人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 5.2人	令和7年3月 5.2人
年間稼働日数	総稼働日数 258日	休日開所日数 19日

授産科目及び授産収入	科目	収入(円)
	自主製品	628,100
	内職作業	721,408
	受託作業	1,581,350
	農作業	32,600
	実習	348,500
	販売	410,000
	リサイクル	102,483
	合 計	3,824,441
工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 14,197円	実績 月額 15,691円



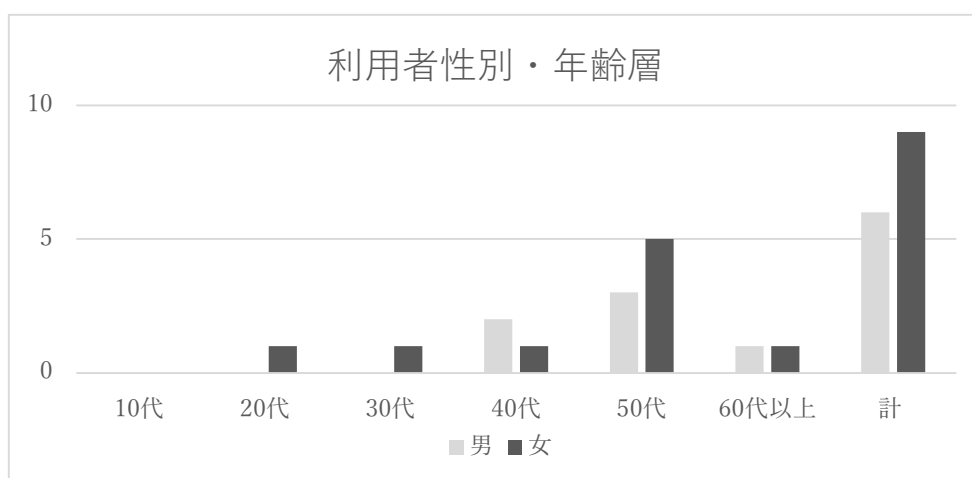


② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	13.1	12.6	12.8	12.9	12.4	13.9	12.5	12.4	12.2	11.8	11.5	10.7
開所日数	22	22	22	23	19	21	23	22	21	21	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和7年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	0	3	2	1	6
女	0	1	2	2	4	1	10
計	0	1	2	5	6	2	16



④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	5 名
知的障害	9 名 (3)
身体障害	0 名
手帳未取得	1 名
その他	0 名

【地域活動支援センターⅢ型】

令和6年度 かしのき事業報告（案）

1. 運営状況

上富田町内在住で障害を持たれ福祉サービスを受けていない方や、日中サービスの利用に至らない方々を主として、自宅以外の場所の提供を目標に活動を行ってきた。

新規利用者は無し、退所者は1名で法人内B型作業所へ移籍。

平日は内職、サロン利用、レクリエーションを中心に活動し、内容はその日来所された方々との話し合いで決めていった。その活動の一部はSNSで広報を継続している。

2. 事業報告

① 就労支援活動

内職関係（学習教材 アサガオの支柱セットづくり）

施設外（梅ひろい）

自主製品（プランターでの野菜作り）

他施設利用希望者の相談対応（にじのわと連携）1名B型事業所へ。

② 生活支援活動

（1）サロン・レクリエーション活動

憩いを主としての活動のため、来所者には強要せず「やりたいこと」をやってもらおうこととしている。サロンでDVD鑑賞・読書・ボードゲーム・TVゲーム・麻雀などを行い、外出時は買い物・観光地周り・外食・スポーツを行ってきた。

（2）昼食支援活動

日々のメニューについてはSNSにて更新を継続中。

③ 個別処遇関係

希望者に対し、可能な支援として以下を行った。

（1）受診同行（送迎含む）

（2）金銭管理

（3）買い物等の支援

3. 地域交流・地域貢献活動

（1）特になし

4. その他の活動

(1) 特になし

5. 行事報告

来所者希望にて、ほぼ毎日レクリエーション活動を行ってきた。

月	日	行事等	備考
4		ウォーキング、ゲーム、買い物、他	
5		ウォーキング、ゲーム、買い物、他	
6		ウォーキング、ゲーム、園芸、買い物、他	
7		DVD鑑賞、運動レク（市ノ瀬体育館）、買い物、BBQ、他	
8		ドライブ（白浜）、買い物、他	
9		DVD鑑賞、図書館、買い物、避難訓練、他	
10		DVD鑑賞、スポーツ交流会、運動会、ゲーム、買い物、他	
11		アウトドア交流会参加、DVD鑑賞、買い物、外食（和わ）他	
12		DVD鑑賞、買い物、クリスマス会、他	
1		室内レク、新年会	
2		室内レク	
3		室内レク、避難訓練	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【地域活動支援センターⅢ型】	
定員	令和6年4月 10人	令和7年3月 10人
実利用者数	令和6年4月 7人	令和7年3月 8人
1日平均利用者数	令和6年4月 5.0人	令和7年3月 4.0人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 2人	令和7年3月 2人
年間稼働日数	総稼働日数 241日	休日開所日数 2日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	請負作業	5,200円
	内職作業	47,800円
		計 53,000円

工賃実績 (一人当たり)	当初目標 月額 円	実績 月額 736 円
-----------------	--------------	----------------

② 利用実績（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均利用者数	4.6	4.3	3.8	4.0	3.8	4.2	3.7	3.1	3.12	3.3	3.6	4.6
開所日数	21	21	20	22	17	19	23	21	20	19	18	20

③ 利用者の性別・年齢層（令和7年3月末時点）

性別	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	3	1	2	0	6
女	0	1	1	0	0	0	2
計	0	1	4	1	2	0	8

④ 障害種別（令和7年3月利用者）

障害名	利用者数
精神障害	6名
知的障害	1名
身体障害	1名
手帳未取得	0名
その他	0名

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 か～む事業報告（案）

1. 運営状況

前年度の 1 日あたりの平均利用者数 15.6 人に対し、令和 6 年度は、16.1 人と前年度より 0.5 人増であった。新規利用者の受け入れが 1 人に対して、退所者が 4 人であり、登録者数は 3 人減となり、令和 7 年 3 月末時点で登録者数は 20 名となった。

退所者の退所理由は 1 人が入院治療中の死去、1 人が他事業所への移行、2 人は就労意欲の減退によるものであった。

登録者数が 3 人減となったが、退所された方は通所日数が少なかった方であったこと、登録利用者の通所状況が安定していたことにより、平均利用者数の大幅な減少は見られなかった。

新規利用者の受け入れについては、はまゆう支援学校卒業生だけであり、卒業生以外の受け入れを増やしていくことが今後の課題となっている。

2. 事業報告

① 就労支援活動

(1) 内職作業

i 亀井商店（日用品の包装など）：毎日継続できる作業であり、作業工程を分けることができるため、か～むを利用している利用者全員が従事することができた。また、新規の利用者や体験利用者も作業に関わることができた。メインで行っている作業の単価が上がったことで授産収入が増加した。

ii 福梅本舗（梅の箱詰め、シール貼り）：繁忙期と閑散期の作業量の差はあるが、1 日～2 日で無理なく完了できる作業量であるため、利用者の体調等に配慮して、一人一人のペースに合わせて行うことのできる作業を提供することができている。

iii オリムピック（保証書入れ、シール貼り、筒の穴詰め）：大勢の中での流れ作業が苦手なメンバーに対して、少人数で自分のペースでできる作業の提供ができた。昨年からは始めている筒の穴詰め作業が定着したことで、不規則な作業提供であったのが、個別対応が必要な利用者に対しても定期的に作業提供することができるようになってきている。

(2) 受託作業

i 草引き：週に 1 回の午前中の作業で、参加者を募って行っている。作業所内の作業と差別化を図るため、手当をつけている。屋外での作業のため、利用者の気分転換にもなっている。

ii ペットボトル作業：キャップ外し、洗い、ラベルはがしの作業を週に 1 回午後からの作業で参加者を募って行っている。作業所内の作業と差別化を図るため、手当をつけてい

る。

iii 給食運搬：陽だまり、か〜むの2施設の給食運搬業務を行っている。給食数に大きな増減がなく、安定して収入を得ることができている。

iv 便利屋作業：荷物の搬入や清掃作業を行った。参加してくれた利用者には、手当をつけている。

v アルミ缶回収：毎週金曜日に白浜町内を中心に協力してもらっているところに回収を行い、整理、分別を行っている。

vi 洗車：今年度は洗車作業の依頼はなかったが、車両点検終了後に、事業所の送迎車の洗車を継続して行った。

(3) 販売活動

ジュース販売：事業所内で自販機より値段を安く設定して販売。毎日の売上計算や補充は利用者が担当している。利用者の嗜好等に合わせて、新しい商品の仕入れを行った。

(4) バザー活動

福祉フォーラムこいのぼりの会、人権フェスタ、ふれあい文化祭にバザー出店した。新商品として、ホットドッグとみなべ町のケーキ屋さんの協力でシフォンケーキを販売した。商品単価を上げたことと、新商品の販売により年間のバザー収益を増やすことができた。

(5) その他

物品販売（そうめん、ちゃんぽん）を利用者の賞与の資金作りとして取り組み、昨年度と同様の収入が確保できた。

② 生活支援活動

(1) 利用者の日常生活能力の維持や向上を目的として、館内清掃や調理実習、昼食の配膳、食器洗い等の活動を行った。利用者が主体的に取り組めるように事前の説明と役割分担を行い、それぞれの活動を行った。

(2) 年1回の健康診断を実施し、健康状態の把握と生活習慣についての助言を行った。朝礼後の散歩やレクリエーションでスポレクの実施を継続して行い運動する機会を設けた。また、健康管理の意識向上を目的に体重測定と血圧測定の支援を行い、習慣化することができた。

(3) 金銭の相談や管理、申請書類の相談や同行、身だしなみ等について助言を行った。生活に必要な物品を購入し、それぞれの生活が充実できるよう定期的な買い物支援を継続して実施した。

(4) 日々の体調確認や手洗い、うがい、アルコール消毒等の感染対策を実施した。また、希望者に対してインフルエンザ予防接種の同行支援を行った。感染者の発生は見られたが、施設内で感染拡大することはなかった。

(5) 服薬支援の必要な方に対して、昼食時の服薬の確認や服薬準備の支援を行った。頓服

が処方されている方には、服用時の相談支援も行った。入院に至ったケースはあったが、退院後は再入院することなく継続して通所することができている。

③ 個別処遇関係

- (1) 利用者の意向や課題を確認しながら個別支援計画書を作成し、定期的な見直しを行った。
- (2) 主治医との意思疎通が難しい方や精神的な不調により重篤な疾患がある方の受診同行を定期的に行い、家族、関係機関と連携して支援を行った。
- (3) 通所が滞った利用者に対し、関係機関と連携し電話連絡や訪問支援を行った。
- (4) 前年度に引き続き、今年度も支援学校卒業後の利用者の保護者との情報交換をする手段として、連絡ノートを活用した。日々情報交換ができることで、家庭と連携した支援を行うことができている。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) 5月に福祉フォーラムこいのぼりの会にバザー出店した。販売活動以外にも他事業所や地域住民、高校生ボランティアとの交流の場となった。次年度以降も参加を継続していく。
- (2) アルミ缶回収を通して、地域の方や企業に協力を得ている。

4. その他の活動

- (1) 介護保険サービスを併用する利用者に対して、必要に応じ関係機関と連携を行った。
- (2) 年2回(9月、2月)の防災訓練を実施し、利用者とは非常持ち出し袋の確認を行った。津波を想定した避難訓練では、高台の避難場所までの避難を実施した。
- (3) 休日開所を24日行った。作業だけでなく、余暇支援としてボランティア事業への参加やレクリエーションの企画を行い、休日開所の参加者を増やすことができた。
- (4) 外部研修の参加を行い、参加後に事業所内で伝達を行った。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	4	ドライブ(和歌山方面)	土曜開所
	11	買い物支援	6日 レク(白浜商工祭)
	25	スポレク(体育館)	13日 作業日
5	9	ドライブ(古道ヶ丘)	土曜開所
	16	買い物支援	3日 作業・バザー準備
	23	室内ゲーム	4日 こいのぼりの会(バザー)
	30	カラオケ、DVD鑑賞会	
6	6	調理実習(冷やし中華)	土曜開所
	13	買い物支援	1日 作業日
	20	グラウンドゴルフ(陽だまり合同)	22日 作業日
	27	かき氷	

7	4 11 18 25	外食（とれとれ亭） 買い物支援 カラオケ、DVD鑑賞会 かき氷	土曜開所 6日 作業日 20日 作業日
8	8 22	外食（三国一）、買い物支援 田辺新庁舎見学	土曜開所 3日 作業日 31日 作業日
9	2 5 12 25 26	調理実習（カレー） ドライブ（御坊方面） 買い物支援 避難訓練 和歌山駅散策	土曜開所 7日 作業日 21日 作業日
10	3 17 21 31	スポレク（運動会練習） 買い物支援 調理実習（ホットドッグ） カラオケ、DVD鑑賞会	土曜開所 5日 弁慶まつり 19日 グラウンドゴルフ（ボラ事業）
11	7 14 21 28	パンケーキ作り 買い物支援 スポレク（体育館） 音楽ライブ（か〜む）	土曜開所 9日 アウトドア交流会（ボラ事業） 16日 人権フェスタ（バザー）
12	2 12 19	調理実習（お鍋） 買い物支援 忘年会	土曜開所 7日 作業日 14日 作業日
1	6 16 24 30	初詣 買い物支援 やおき新年会 カラオケ、DVD鑑賞	土曜開所 18日 作業日 25日 作業日
2	6 13 17 25 27	観梅（みなべ） 買い物支援 健康診断（はまゆう病院） 健康診断（はまゆう病院） 防災学習（稲村の火の館）	土曜開所 11日 作業日（休日開所） 15日 ふれあい文化祭（バザー）
3	6 13 20	買い物支援 日帰り旅行（神戸） 茶話会	土曜開所 8日 作業日 29日 作業日

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労継続支援B型】	
定員	令和6年4月 20人	令和7年3月 20人
実利用者数	令和6年4月 24人	令和7年3月 20人
1日平均利用者数	令和6年4月 16.7人	令和7年3月 15.3人
職員常勤換算配置数	令和6年4月 5人	令和7年3月 5人

年間稼働日数	総稼働日数 263 日	休日開所日数 24 日
授産科目及び授産収入	科目	収入（円）
	内職作業	1,156,100
	受託作業	705,370
	販売活動（自販機、ジュース販売）	449,491
	その他（和作連物品、便利屋作業他）	505,430
		計 2,816,391 円
工賃実績 （一人当たり）	当初目標 月額 12,000 円	実績 月額 11,476 円

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	17.3	17.2	17.8	17.9	15.8	14.9	14.9	15.6	15.7	14.6	13.6	15.4
開所日数	23	23	22	24	19	21	24	22	22	21	20	22

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	1	2	0	1	3	2	9
女	0	1	1	4	3	2	11
計	1	3	1	5	6	4	20

⑩ 障害種別（※重複あり）

障害名	利用者数
精神障害	10 名
知的障害	9 名
身体障害	4 名
手帳未取得	0 名
その他	0 名

【就労継続支援 B 型・就労定着支援】

令和 6 年度 すまいる事業報告（案）

1. 運営状況

今年度も生活リズムの安定に繋げる支援と、日中活動（主に作業）への参加に繋げる支援を、就労継続支援 B 型の主なサービス内容として積極的に取り組んだ。授産活動は、利用者 1 人 1 人のステップアップもあり、通年通して効率よく生産活動を行うことができた。また、施設内作業費、施設外実習費の見直しもあり、結果目標工賃アップに繋ぐことができた。

サービス内容の変更として、令和 6 年 5 月に給食サービスを契約していた事業所の調理人さんが、体調を崩してしまい約 10 年続けた給食サービスを終了し、お弁当の提供に変更することになった。

2. 事業報告他

① 就労支援活動

(1) 就労継続支援 B 型

i 利用者状況 - 今年度は、新規利用者として、南紀はまゆう支援学校卒業生 1 名（みなべ町）、にじのわ相談事業所から 1 名（みなべ町）の利用と、病気で自己退職した利用者 1 名（みなべ町）が、再利用で利用することになり、3 名の利用者が増えた。約 8 割の利用者が、安定した通所と生産活動の参加が継続してできている。不安定な通所者の休む内容は、精神的な不調、体調不良、家族旅行で休む内容が多かった。

ii 就労訓練内容

「施設内作業」

通年参加できる施設内作業（梅加工業、箱折り等）に利用者全員従事し、仕事する意識付け、仕事する体力、職場マナー等を習得する支援を行った。

年 4 回の繁忙期もあるが、今年度も作業時間（1 日 4 時間）を基本とし、生産活動の効率化を図るよう取り組んだ。昨年度と同様に単発作業として、シャディの作業（箱折り・商品詰め）を請け負い、単発作業としての不安もあったが、期間限定の作業として無事終了することができた。単発作業のため、通年通しての作業と違い、作業のモチベーションの切り換えには良い作業なので、今後も継続する予定である。

「施設外作業」

清掃活動（4 事業所）、梅加工業（1 事業所）での実習に取り組み、就労体験の場として提供している。就労意欲向上に繋がっている利用者を通して、3 事業所に実習費の工賃アップをお願いし見直しすることができた。反対に、何人かの利用者は、就労意欲の向上に繋がらないため、実習への参加の見直しが必要となっている状況であ

る。

今年度の農事作業は、梅不作の影響で、いつもの農事作業の日数も少なく終了となり、農事作業が得意な利用者は、とても残念がっていた。

iii 就労状況 - 今年度は、2 名を一般就労に繋げた。1 名は、就労して 1 年 5 ヶ月経過するが、大きな問題もなく継続できている。1 名は、ダブルワークで、令和 6 年 4 月から約 1 年様子を見守ったが、令和 7 年 3 月末で自己退職することになった。

iv 研修 - 計画で自立支援協議会就労部会研修等の参加も予定していたが、参加できなかった。今後参加することで、他事業所の取り組み等を情報収集し、授産活動の活性化に繋げていきたいと思う。

(2) 就労定着支援

i 利用者状況 - 今年度は、令和 6 年 6 月から 1 名（知的障害）の支援を開始、令和 7 年 1 月から 1 名（知的障害）の支援を開始し 2 名継続している。

ii 就労定着内容 - 1 名（知的障害）は、大きな問題もなくアンカーと情報交換、共有し定着支援を継続している。1 名（知的障害）もアンカーとの情報交換、共有も密に行っている。午後の勤務の定着支援で、職場訪問等をしていたが、本人の障害特性のこだわり、仕事が捗らなくなり、今年度末で自己退職することになった。今後も定着支援を継続し、再就職につなげていけるよう支援内容を調整していく。

(3) 障害者相談支援事業

i 相談者状況 - 今年度は、4 人（精神）、1 名（知的）の方の申し送りを行った。委託事業の相談者は、ケース会議に参加し相談者の内容を申し送りで終了する相談者もいるが、その後も必要な際は、情報交換、共有し対応する相談者も増えている。今後も、定期的な会議を開催し、必要な役割分担を相談事業所同士で検討していく重要性が、高まっている。

ii 相談事業内容 - にじのわと一緒に支援を継続している相談者 3 名（発達障害者）は、日常生活の見守りサポートの連携と、福祉サービス利用の 1 名（知的）は、子供の療育問題等、今後の方向で情報交換共有が密に必要なとなっている。

iii 研修 - 相談支援研修は、年 3～4 回参加予定として今年度は、2 回参加できた。所長、主任が参加したスキルアップ研修の共通の内容として、支援する側のつながりが多ければ、自然と包括的な支援に繋がっていく話を聞き、つながりを多くもつ機会を継続して作ることの必要性を強く感じた内容であった。日々実践の場で取り組み、構築していくよう努めていきたい。

(4) 計画相談事業

i 相談状況 - 36 人（精神 16・知的 18・身体 2）の計画相談を行った。

新規に2名を受け入れ、福祉サービスに繋げることが出来た。

相談終了者は、5名で、福祉サービス終了が1名、相談事業所の変更が4名であった。

- ii 相談事業内容ー2名（精神）は、にじのわと一緒に支援をしていた相談者だが、今年度中に、福祉サービスに繋がらなかったため、一旦計画相談事業を終了することになった。

② 生活支援活動

- (1) 生活習慣ー朝礼時に身だしなみ確認（挨拶・歯磨き・洗髪・服装・持ち物等）を行うことで、習慣としてできるようになった利用者も増えてきている。必要なケースは、今後も家族に協力してもらい取り組んでいきたいと思う。
- (2) 健康管理ー今年度も通所者全員に健康診断を年1回受けて貰い、病気の早期発見、早期治療に繋げる支援を行った。通所後気になる症状がある際は、本人の様子を見守り、不安が強くないよう心掛け対応した。緊急の際は、家族に連絡し対応してもらった。
- (3) 金銭管理ー必要な利用者は、関係機関と連携し、金銭管理（社協の福祉サービス利用援助事業）を行った。ATMの利用経験がない利用者には、家族の同意を得て機械の操作手順を教える支援を行った。
- (4) 受診同行ー利用者の体調面、精神面の観察を行い、気になる利用者は、声掛け支援（服薬の声掛け・確認）を行った。必要な際は、本人、家族と話し合い、受診同行し、主治医と情報交換、共有し支援内容を調整し、病状の安定と回復に繋げる支援を行った。

③ 個別処遇関係

本人が自分の目標として取り組めて達成できる内容を、利用者の意見、家族からの意見として聞き取り支援計画の作成に心がけた。自分の目標を立てづらい利用者は、家族からの聞き取りで情報共有し、本人のペースで、取り組める目標と一緒に考え、個別支援計画書の作成に繋げるよう努めた。

3. 地域交流・地域貢献活動

- (1) みなべ町障害福祉サービス事業所連絡会に参加し、9事業所の紹介と各事業所の防災対策の意見交換を行った。今後は、合同防災訓練も検討していく話もあり、みなべ町内の連携施設同士の取り組みとして、有意義な機会を共有することができた。
- (2) 商工会活動には、職員、利用者ともに参加しバザー活動、余暇活動も含め地域への取り組みに積極的に参加することができた。今後もできるだけ地域活動の機会を増やしていきたい。

4. その他の活動

(1) 自治会活動（余暇活動等）

繁忙期以外の時期に計画し買い物レク、外食レク、一泊旅行等を行い、利用者、職員とも楽しむことができた。コロナ後、定期的に行うことができるようになり、利用者の余暇活動への好奇心が広がってきている。また、法人主催の他事業所と交流するレクリエーションの場（ボランティア事業・企画部）を楽しみにしている利用者也、年々増えてきている。

(2) 健康診断

年1回の健康診断を行い早期発見、早期受診に繋げた。気になる年齢層（40代以上の利用者）は、早めにかん検診を受けるよう声掛けし、病気予防に繋げる取り組みを行った。

(3) 避難訓練

年2回の防災訓練を開催し、消防職員に指導していただいた。1回目は、シェイクアウト訓練実施後、避難場所に避難、最後にAEDの使い方を教えていただいた。

利用者も久しぶりのAED訓練のため、緊張もあったが、積極的に参加し、初めて機械装置を知り、使用した利用者から「体験できて良かった。」という感想もあった。

2回目は、避難場所移動後、消火器訓練を利用者全員に体験してもらった。

今後でもできるだけ体験型の防災訓練内容を計画し、実践していきたい。

(4) 防犯研修

携帯電話からの詐欺被害が増えているため、講師を警察官にお願いし、特殊詐欺学習会を開催した。理解しやすい動画を視聴することで、利用者の詐欺予防の意識付けに繋げる取り組みを行った。また、不審者訪問を想定し、地域の警察官を交えての研修として取り組む予定であったが、福祉事業所数が多く対応が困難という理由で、取り組むことができなかった。来年度の計画として、近隣の福祉事業所と合同研修として検討したい。

(5) 業務継続研修

今年度は、感染症（新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス、食中毒等）の発生を想定した研修と訓練を行った。1回目は、基本学習を動画視聴後、訓練として消毒備品の場所、備品在庫確認、手洗い体験、消毒液作りを行った。2回目は、ノロウイルス、食中毒を想定し動画視聴後、防護服、マスク、手袋着用後、消毒液作り、トイレ内の嘔吐物処理、汚れ物処分、手洗いまでの工程を訓練として行った。訓練後、実践した人、観察した人で意見交換する時間を取り、実践の際行う工程を確認する振り返りができた。また、普段気にしていない日常生活の中での不衛生に感じている意見を出しあい、食中毒予防の意識付け強化に繋がる時間となった。

5. 行事報告

月	日	行事等	備考
4	27		・メーデー（扇ヶ浜）
5	17 21	・調理実習（ヒレカツ・ポテトサラダ・おでん） （みなべ町生涯学習センター） ・余暇活動 （外食パビリオンシティ） ・スポレク（キンボール） （田辺市体育センター）	
6			梅収穫作業繁忙期のため余暇活動自粛
7			繁忙期のため余暇活動自粛
8	24	・余暇活動 （パビリオンシティ） （外食 和わ）	
9	5	・避難訓練	
10	11 18	・やおき運動会 （田辺スポーツパーク） ・余暇活動 （外食 マルキ精肉店）	
11	2 25	・キャンプ体験（古道ヶ丘）	16 人権フェスティバル（扇ヶ浜） 23 あきんどカーニバル （ふれあいセンター）
12	20	・キンボール （田辺スポーツパーク）	
1	21・30 24	・健康診断（はまゆう病院） ・やおき新年会（ビッグU）	
2	28	・すまいる1泊旅行 （ららぽーと堺） （外食 とれとれ亭） （宿泊 ホテル三楽荘）	9 UME-1 バザー（ふれあいセンター） 16 ふれあい文化祭（ハナヨアリーナ）
3	1 13 28	・すまいる1泊旅行 ・避難訓練 ・健康診断（竹村医院） ・お楽しみ会（清川球場） （外食 うめヲムスビ）	

6. 数値実績

① 施設概要

事業種別	【就労定着支援】		【就労継続支援B型】	
定員	令和6年4月 人	令和7年3月 人	令和6年4月 25人	令和7年3月 20人
実利用者数	令和6年4月 0人	令和7年3月 2人	令和6年4月 24人	令和7年3月 26人
1日平均利用者数			令和6年4月	令和7年3月

			22 人	22.5 人
職員常勤換算配置数	令和 6 年 4 月 0.25 人	令和 7 年 3 月 0.25 人	令和 6 年 4 月 5.5 人	令和 7 年 3 月 5.5 人
年間稼働日数	総稼働日数 259 日	休日開所日 19 日	総稼働日数 259 日	休日開所日 19 日
授産科目及び授産収入			収入（円）	
			施設内	5,047,559
			施設外	2,778,834
			受託作業	1,191,257
			バザー	365,750
			雑収入	168,950
			計	9,552,350 円
工賃実績 (一人当たり)			当初目標 月額 25,100 円	実績 月額 32,921 円

② 利用実績（月別）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
平均利用者数	22	21.2	21.4	21.6	20.9	21.1	21.3	21.3	19.8	21.2	20.2	22.5
開所日数	22	23	22	23	18	21	23	22	23	21	20	21

③ 利用者の性別・年齢層（令和 7 年 3 月末時点）

性別	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代以上	計
男	1	6	2	2	2	1	14
女	0	4	4	1	1	2	12
計	1	10	6	3	3	3	26

(平均年齢 36 歳)

④ 障害種別

障害名	利用者数
精神障害	7 名
知的障害	17 名
身体障害（重複含む）	2 名

【就労継続支援 B 型】

令和 6 年度 いなづみ作業所事業報告（案）

1. 運営状況

外作業から内職作業への移行についてはかなり進めることができた。半数以上のメンバーが内職作業に携われるようになりつつあるが、細かな作業はどうしても苦手な方が多く、今後は内職の内容をよく吟味しながら仕事を探す必要がある。

体調がすぐれないメンバーや重篤な持病をもったメンバーについては、積極的に医療機関への送迎と同伴受診を行った結果、病気で退所者を出さずに済んだ。

2. 事業報告

① 就労支援活動

外作業から内職作業への切り替えにより平均工賃は下がっているが、作業に関われる人数は増えている。今後も、高工賃ではなく全員が作業に関われる事を目標にしていきたい。

（1）受託作業

i. 洗車作業

すさみ社協とやおき工房の公用車の洗車のみ請けたが、作業に参加できる人数が少ないため、社協の方は台数を半数に減らしてもらった。

ii. お墓の清掃

年単位での契約をしてくれるお客様のみ対応している。

お寺の墓地は急な階段や大きな段差があるため、足腰が弱いメンバーの参加は控えてもらう場面も多くなっている。

iii. 洗濯作業

すさみ社協のデイケアを利用している方と、いなづみ作業所の利用者のみ受注している。

iv. ソーラー発電所の管理

谷になっている急斜面の部分については、今年はシルバー人材センターに草刈りをお願いした。パネル下の草引きのみメンバーで作業し、安全を最優先にした。

（2）自主製品

i. EM ボカシ

他府県の行政より数百キロ単位での発注が可能かどうかの問い合わせがあり、駆除した害獣を埋めたところにいなづみの EM ボカシを撒くと臭い対策になるという

話を聞いたとの事。まだ正式発注は頂けていないが、将来的にそういう方面からのニーズも期待できる。

ii. リサイクル石鹸

一部のコアなファンが買ってくれているが、年間 20 個程度の売り上げに留まっている。制作工程で危険な薬品を使うため、メンバーの仕事はあまり多くは無いので、増産は考えていない。

iii. 野菜作り

内職作業への移行と積極的な通院同伴による職員不足もあり、収穫量は増えていない。

(3) リサイクル作業

行政より、スチールとペットボトルキャップの回収もお願いしたいとの要請があった。リサイクル棟の軒先に大型の回収箱を設置する予定だが、収入に対して設備投資額が大き過ぎるので行政に対して補助をお願いしている。

(4) 内職作業

アサガオ栽培キットの内職が軌道に乗ったが、10 月～3 月の半年間だけの仕事なので残りの半年の作業を模索している。

(5) バザー

すさみ町主催の町民運動会、福祉まつり、日置の弓矢八幡のバザーに参加。

② 生活支援活動

(1) 健康診断

町の健康診断に同行し、診察がスムーズに行えるよう支援をした。

また要受診の結果が出たメンバーについては病院への受診に同行し、今後の生活支援の方向性を訪問介護事業所等に相談した。また、保健師による健康指導の手配もして食事内容のアドバイスや生活習慣の改善を促した。

(2) 買物支援

歩行が困難な利用者や決済時に援助が必要な利用者、経済的に購入金額に制限がある利用者を対象に、購入品を精査し、生協での共同購入をしている。

その際、健康診断等で食事制限を勧められた利用者については購入品についてアドバイスをし、糖分や塩分を摂りすぎないように注意した。

また、内職の納品に合わせて田辺市内での買い物の時間も増やした。

(3) 受診同行

すさみ病院が遠方に移転したため、通院者全員の送迎をした。

医師より、コミュニケーションが難しい利用者や説明を理解しづらい利用者については受診時に一緒に診察室に入って欲しいとの要望があり同伴した。

紀南こころの医療センターへの同行については、「にじのわ」が担当しているが、その他の眼科や皮膚科、耳鼻科、整形、外科、内科などについてはいなづまが同行している。しかし、職員一人がほぼかかりきりの状態で、内職作業や野菜の生産事業の運営に大きく影響している。病院への同伴については、町に対して強く補助を申し入れていく。

(4) 服薬管理

3 名の利用者の服薬管理をしているが、急な休みの場合等の対応などに苦慮している。

(5) 金銭管理

8 名の利用者の金銭管理をした。すさみ社協の日常生活自立支援事業と協力し、大きなお金は社協を通して銀行で管理し、日々のお小遣いや買い物代金、病院代金などを預かった。

(6) レクリエーション

コロナ禍の期間中に、メンバーがそれぞれに貯めていた旅行積立を使うべく鹿児島旅行を実施した。飛行機やフェリーへの搭乗、雄大な桜島、地元の名物料理など日頃できない体験をたくさんして頂いた。

(7) その他

地域食堂（町民健康増進事業）に参加し、健康体操の後に栄養バランスのとれた昼食を低価格で提供できた。

④ 個別処遇関係

毎日終業時のミーティングにおいて気がついた利用者の情報を共有しつつ、週に一度の職員会議においてはメンバー全員について一人ずつ丁寧に様子を報告し合いながら問題の整理と目標の達成具合を確認した。（3 ヶ月に一度、身体拘束適正化委員会を開催）

個別支援計画の立案においては、その都度職員会議の中で時間を作り支援会議を行った。

3. 地域貢献及び地域交流活動

すさみ小学校の児童を招き、畑で枝豆の栽培を行った。

苗を植える作業をしてもらい、秋には収穫を体験してもらった。

大変好評をいただき、学校側からは是非来年度もやって欲しいと要望されている。

4. その他の活動

(1) 避難訓練

火災と地震を想定した避難訓練をそれぞれ1回ずつ行い、避難ルートの確認や初期消火の訓練などを行った。

(2) 防犯訓練

白浜警察の警察官に来ていただき、特殊詐欺などについてのお話をしてもらった。
また、職員向けには不審者対策などについてもレクチャーを受けた。

5. 行事計画に対する実績

月	計画	実績
4	弓矢八幡神社チャリティーバザーへの参加	弓矢八幡神社チャリティーバザーへの参加
5	買い物・スポーツレク	買い物、イノブータン建国祭見学
6	防災・防火訓練	優悦館でレクリエーション
7	草刈繁忙期により行事なし	鹿児島旅行、シーモアバイキング
8	草刈繁忙期により行事なし	繁忙期により行事なし
9	草刈繁忙期により行事なし	つながる DAY 参加
10	旅行	やおき運動会、町民運動会
11	すさみ町町民運動会へのバザー参加	古道ヶ丘にてアウトドア交流会参加
12	忘年会、大掃除	クリスマス、忘年会
1	初詣、新年会	初詣、やおき新年会参加
2	防火・防災訓練	調理実習（巻き寿司、豚汁）
3	いきいきふれ愛まつりバザー参加 次年度自治会役員選出	防火訓練 人権学習会（落語）

6. 数値指標に対する実績

	計画	実績
1日平均利用者数	14人	12.7人
年間稼働予定日数	260日	260日
目標工賃（一人当たり）	20,000円	16,286円

就労支援売上実績

	計画	実績
受託作業	290 万円	253 万円
自主製品	10 万円	13 万円
内職作業	70 万円	6 万円
物品販売	20 万円	18 万円
リサイクル	25 万円	25 万円
その他	10 万円	33 万円
合計	425 万円	348 万円

7. 利用者の性別・年齢層・障害種別

	男	女	計
10 代	0	0	0
20 代	0	0	0
30 代	1	0	1
40 代	1	0	1
50 代	3	1	4
60 代	4	1	5
70 代	4	0	4
計	13	2	15

障害種別	人数
身体	2
知的	5
精神	9

(※重複あり)